地質学雑誌　第116巻　第2号（通巻1373号）付録　平成22年2月15日発行（毎月1回15日発行）

日本地質学会 News

Vol.13 No.2 February 2010

日本地質学会会員の皆様へ　　特別割引販売のお知らせ

フィールドジオロジー（全9巻）

編集：日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会
秋山雅彦（委員長）・天野一男・高橋正樹（編集幹事）
B6判・約200頁・定価2,100円⇒会員特別割引価格1,900円（税込）

日本地質学会会員を対象に、特別割引価格での販売をいたします。
手続きは、共立出版に直接扱っていただきますので予約申込みは、下記用紙をご利用ください。

日本地質学会フィールドジオロジー刊行委員会

事務手続き代行：共立出版株式会社

［問い合せ先］〒112-8700　東京都文京区小日向4-6-19
共立出版株式会社　営業部　販売課　担当：藤本・門間　　TEL 03-3947-2513
［お支払方法］書籍（請求書・振替用紙同封）到着後、ご送金ください。
＊お申込みはこのページをコピーのうえ、FAXまたは郵便にて共立出版へお送りください。
＊この申込み用紙は書店・生協ではご利用（注文）できませんのでご注意ください。

申込書 ⇒ 共立出版株式会社　営業部　販売課 行　　FAX 03－3947－2539

＊日本地質学会　会員特別割引価格　各巻1,900円（税・送料込）
＊全巻セット・続刊のご注文は、刊行次第お送りいたします。

巻数	書　名	著　者		注　文
	フィールドジオロジー　全9巻	フィールドジオロジー刊行委員会	全9巻	セット
①	フィールドジオロジー入門	天野一男・秋山雅彦	**発売中**	冊
②	層序と年代	長谷川四郎・中島　隆・岡田　誠	**発売中**	冊
③	堆積物と堆積岩	保柳康一・公文富士夫・松田博貴	**発売中**	冊
④	シーケンス層序と水中火山岩類	保柳康一・松田博貴・山岸宏光	**発売中**	冊
⑤	付加体地質学	小川勇二郎・久田健一郎	**発売中**	冊
⑥	**構造地質学**	天野一男・狩野謙一	**12/23発売**	冊
⑦	変成・変形作用	中島　隆・高木秀雄・石井和彦・竹下 徹	**発売中**	冊
⑧	火成作用	高橋正樹・石渡　明	続　刊	冊
⑨	第四紀	遠藤邦彦・小林哲夫	続　刊	冊

ご芳名			
送付先 □勤務先 □ご自宅	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
通信欄	□公費等の場合は、請求先・必要書類をご記入ください。		

日本地質学会*News*

Vol.13 No.2 February 2010

The Geological Society of Japan *News*
日本地質学会/〒101－0032　東京都千代田区岩本町２－８－15
井桁ビル ６F
編集委員長　坂口有人
TEL　03－5823－1150　FAX　03－5823－1156
main@geosociety.jp（庶務一般）
journal@geosociety.jp（編集）
http://www.geosociety.jp

planetearth® Earth Sciences for Society 2007 – 2009

Contents

2010年度代議員選挙の結果報告 ……2

案内 ……4
海洋研究開発機構・Blue Earth'10/日本堆積学会2010年茨城大会

公募 ……4
（財）電力中央研究所火山活動評価技術（火山学）研究職員（常勤）募集/平成22年度高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用研究公募要領

各賞・助成 ……4
2010年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

CALENDAR ……5

紹介 ……6
多発する地震と社会安全　―カリフォルニアにみる予防と対策―
ロバート・S・イーツ　太田陽子・吾妻　崇訳（鎮西清高）

新版地質図報告書類 ……6
20万分の１地質図幅「徳之島」斎藤　眞ほか著（尾上哲治）

学協会・研究会報告 ……8
IGCP：第５回IGCP516「Geological Anatomy of East and South Asia（東・南アジアの地質学的解剖）」参加報告（堀内　悠）/IGCP507第４回国際シンポジウム「白亜紀のアジアの古気候とそれらの国際的な比較」（熊本）参加報告（吉野恒平・石田直人）
IYPE：国際惑星地球年（IYPE）リスボンイベント参加報告（1）（2009年11月20-22日）（佃　栄吉）/参加報告（2）（戸丸　仁）/参加報告（3）（高木悠花）

第１回惑星地球フォトコンテスト審査結果 ……14

地学教育のページ ……15
地元に産する高級石材「竜山石（凝灰岩）」の研究でグランプリ受賞（川勝和哉）

TOPIC ……16
糸魚川ジオパークinうえの（講演会および体験イベント）（茨木洋介・松岡　篤）

支部コーナー ……18
関東支部　地質技術伝承講演会：地質技師長が語る地質工学余話（４月・６月）のお知らせ（第１報）/2010年度関東支部総会（４月18日）のお知らせ/北海道支部　支部総会・個人講演会のお知らせ

院生コーナー ……19
研究室紹介　山口大学理学部地球圏システム科学科（宮田雄一郎研究室一同）

災害に関連した会費の特別措置のお知らせ／2010年度学部学生割引・院生割引申請受付中 ……20

学会記事 ……21
（任）日本地質学会2009年度第６回理事会議事録／（任）日本地質学会2009年度第７回理事会議事録・（一社）日本地質学会2009年度第７回執行理事会議事録／（任）日本地質学会2009年度第２回定例評議員会議事録

一般社団法人日本地質学会 ……25
（一社）日本地質学会2009年度第６回執行理事会議事録／（一社）日本地質学会2009年度第２回理事会議事録

日本地質学会会員の皆様へ：
宮崎県総合博物館より情報提供のお願い ……26

表紙紹介 ……26
青海川ヒスイ峡の日本最大のヒスイ

訃報 ……26

出版物在庫案内 ……27

入会申込書

2010年富山大会
シンポジウム・トピックセッション募集中

募集締切：2010年３月15日（月）

第117年学術大会（富山大会）：９月18日（土）～20日（月）

詳しくは，ニュース誌１月号もしくは学会HPをご参照下さい．

事務局営業カレンダー　お休み　＊印は振替休日です

2月/February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28						

3月/March

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15*	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

印刷・製本：日本印刷株式会社　東京都千代田区外神田６－３－３

2010年度代議員選挙の結果報告

2010年１月16日
一般社団法人日本地質学会
選挙管理委員会委員長　松田　達生
開票立会人　佐野　貴司
開票立会人　竹内　圭史

選挙規則ならびに選挙細則に基づき，標記選挙を実施いたしました．結果は，下記の通りとなりましたのでご報告いたします．

１）全国区代議員は定数を越えなかったため，無投票当選といたしました．
２）地方支部区代議員の選挙実施結果
有権者総数　4260名　投票用紙発送数　4157通
地方支部区毎の有効投票数，無効投票数は以下の通りです．

	北海道	東北	関東	中部	近畿	四国	西日本
有効	55	54	309	146	82	29	129
白票	0	1	4	4	2	1	0
無効	0	0	0	1	0	3	1
計	55	55	313	151	84	33	130

３）開票結果
代議員（全国区）　定員100，選出数88
※定数を越えなかったため全国区はすべて無投票当選です．

1　高木　秀雄　早稲田大学
2　矢島　道子　NPO地質情報整備・活用機構
3　芝川　明義　大阪府立花園高等学校
4　星　博幸　愛知教育大学
5　小嶋　智　岐阜大学
6　福冨　幹男　地技研
7　清川　昌一　九州大学
8　佐々木和彦　応用地質（株）
9　原山　智　信州大学
10　井龍　康文　名古屋大学
11　中井　均　都留文科大学
12　藤林　紀枝　新潟大学
13　山口　耕生　東邦大学
14　山田　泰広　京都大学
15　斎藤　眞　産業技術総合研究所
16　七山　太　産業技術総合研究所
17　西　弘嗣　北海道大学
18　林　愛明　静岡大学
19　脇田　浩二　産業技術総合研究所
20　天野　一男　茨城大学
21　石渡　明　東北大学東北アジア研究センター
22　上砂　正一　環境地質コンサルタント
23　小山内康人　九州大学
24　狩野　彰宏　九州大学
25　柴　正博　東海大学社会教育センター
26　田村　嘉之　千葉県環境財団
27　保柳　康一　信州大学
28　吉川　敏之　産業技術総合研究所
29　渡部　芳夫**　産業技術総合研究所
30　荒戸　裕之　国際石油開発帝石（株）
31　公文富士夫　信州大学
32　紺谷　吉弘　立命館高等学校
33　坂口　有人　海洋研究開発機構
34　竹下　徹　北海道大学
35　内藤　一樹　産業技術総合研究所
36　平田　大二　神奈川県立生命の星・地球博物館
37　藤本光一郎　東京学芸大学
38　松田　博貴　熊本大学
39　松原　典孝　茨城大学
40　三次　徳二　大分大学
41　稲場土誌典　国際石油開発帝石（株）
42　片山　肇　産業技術総合研究所
43　川端　清司　大阪市立自然史博物館
44　小荒井　衛　国土地理院
45　榊原　正幸　愛媛大学
46　久田健一郎**　筑波大学
47　道林　克禎　静岡大学
48　渡辺　真人　産業技術総合研究所
49　仲谷　英夫　鹿児島大学
50　磯部　博志　熊本大学
51　阿部なつ江　海洋研究開発機構
52　卜部　厚志　新潟大学
53　大久保　進　石油資源開発（株）技術研究所
54　小尾　靖　神奈川県立相武台高等学校
55　海保　邦夫　東北大学
56　笠原　豊　千葉県環境生活部
57　川端　訓代　（台湾）国立中央大学地球物理研究所
58　北原　哲郎　応用地質（株）
59　倉本　真一　海洋研究開発機構
60　斎藤　実篤　海洋研究開発機構
61　阪口　秀　海洋研究開発機構
62　高橋　正樹　日本大学
63　竹内　章　富山大学
64　中江　訓　産業技術総合研究所
65　西山　忠男　熊本大学
66　楡井　久　NPO日本地質汚染審査機構
67　古野　邦雄　千葉県環境研究センター
68　前川　寛和　大阪府立大学
69　町山　栄章　海洋研究開発機構
70　宮下　純夫*　新潟大学
71　向山　栄　国際航業（株）
72　向吉　秀樹　（株）マリン・ワーク・ジャパン
73　村山　雅史　高知大学海洋コア総合研究センター
74　安藤　寿男　茨城大学
75　磯崎　行雄　東京大学
76　重松　紀生　産業技術総合研究所
77　柴田　伊廣　神奈川県立生命の星・地球博物館
78　佃　栄吉　産業技術総合研究所
79　橋本　善孝　高知大学
80　府川　宗雄　なし
81　松岡　篤　新潟大学
82　三田村宗樹　大阪市立大学
83　宮田　隆夫　神戸大学
84　ウォリス　サイモン　名古屋大学
85　前田仁一郎　北海道大学

86　宮下　　敦　　成蹊中学高等学校
87　杉田　律子　　科学警察研究所
88　小澤　一仁　　東京大学

代議員（地方支部区）　定員100，選出数86
※各地方支部区とも定数を越えず当選ですが，地方支部区選出理事を決めるための投票を行いました．**＊印は地方支部区選出理事です．**（　）は得票数

北海道：定員５，選出数５
1　田近　　淳　北海道立地質研究所（45）*
2　松田　義章　北海道札幌稲北高等学校（40）
2　岡村　　聡　北海道教育大学札幌校（40）
4　吉本　充宏　北海道大学（38）
5　山本　正伸　北海道大学（35）

東北：定員６，選出数６
1　永広　昌之　東北大学総合学術博物館（49）*
2　土谷　信高　岩手大学（44）
3　大友　幸子　山形大学（41）
4　西川　　治　秋田大学（37）
5　菖蒲　幸男　応用地質（株）（34）
6　加々島慎一　山形大学（33）

関東：定員　41　選出数28
1　伊藤　谷生　千葉大学（191）*
2　笠間　友博　神奈川県立生命の星・地球博物館（168）
3　木村　克己　産業技術総合研究所（167）
4　芦　寿一郎　東京大学（166）
5　高野　　修　石油資源開発（株）技術研究所（163）
6　山本　高司　川崎地質（株）（162）
7　中澤　　努　産業技術総合研究所（155）
8　緒方　信一　中央開発（株）（154）
9　松浦　一樹　（株）ダイヤコンサルタント（153）
10　森田　澄人　産業技術総合研究所（151）
11　岩森　　光　東京工業大学（149）
12　足立　勝治　アジア航測（株）（147）
13　安藤　　伸　応用地質（株）（144）
14　荒井　晃作　産業技術総合研究所（143）
14　利光　誠一　産業技術総合研究所（143）
14　古川　竜太　産業技術総合研究所（143）
17　金松　敏也　海洋研究開発機構（141）
18　小田原　啓　神奈川県温泉地学研究所（139）
18　鎌滝　孝信　応用地質（株）（139）
20　飛田　健二　応用地質（株）（135）
21　川浪　聖志　明治コンサルタント（株）（134）
22　亀尾　浩司　千葉大学（132）
23　外田　智千　国立極地研究所（130）
23　吉岡　　正　応用地質（株）（130）
25　本田　尚正　茨城大学（129）
25　楠田　　隆　千葉県環境研究センター（129）
27　市川八州夫　応用地質（株）（128）
28　京相　健二　太平洋セメント（株）（125）

中部：定員18　選出数18
1　竹内　　誠　名古屋大学（94）*
2　大塚　　勉　信州大学（92）
3　河本　和朗　大鹿村中央構造線博物館（85）
3　東田　和弘　名古屋大学博物館（85）
5　山本　博文　福井大学（82）
6　鎌田　雅道　応用地質（株）（78）
6　吉田　孝紀　信州大学（78）
8　永田　秀尚　（有）風水土（77）
8　豊島　剛志　新潟大学（77）
10　延原　尊美　静岡大学（76）
11　大藤　　茂　富山大学（75）
12　栗田　裕司　新潟大学（72）
13　北村　晃寿　静岡大学（71）
14　大谷　具幸　岐阜大学（70）
14　角田　謙朗　山梨大学（70）
16　石田　　桂　信州大学（69）
17　柏木　健司　富山大学（68）
17　椚座圭太郎　富山大学（68）

近畿：定員12　選出数12
1　奥平　敬元　大阪市立大学（59）*
2　升本　眞二　大阪市立大学（54）
3　小林　文夫　兵庫県立人と自然の博物館（52）
4　山路　　敦　京都大学（51）
5　中条　武司　大阪市立自然史博物館（50）
6　石井　和彦　大阪府立大学（49）
6　田中　里志　京都教育大学（49）
8　上原　祐治　応用地質（株）（48）
8　和田　穣隆　奈良教育大学（48）
10　宮川　歩夢　京都大学（46）
11　竹村　厚司　兵庫教育大学（44）
12　大串　健一　神戸大学（43）

四国：定員４　選出数３
1　村田　明広　徳島大学（25）*
2　佐野　　栄　愛媛大学（20）
3　寺林　　優　香川大学（19）

西日本：定員14　選出数14
1　太田　泰弘　北九州市立自然史・歴史博物館（89）*
2　下山　正一　九州大学（85）
3　池上　直樹　御船町恐竜博物館（84）
4　西園　幸久　西日本技術開発（株）（82）
5　宮本　隆実　広島大学（81）
6　尾上　哲治　鹿児島大学（79）
7　酒井　哲弥　島根大学（74）
7　辻森　　樹　岡山大学地球物質科学研究センター（74）
9　加藤　敬史　倉敷芸術科学大学（73）
10　柚原　雅樹　福岡大学（71）
11　豊原富士夫　熊本大学（70）
11　山田　靖司　応用地質（株）（70）
13　岡本　真琴　九州国際大学（64）
14　福地　龍郎　山口大学（62）

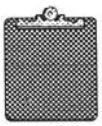
４）会長・副会長立候補者への意向調査結果について

法人の代表理事は法律により，理事会において選任することが定められています．学会の代表理事となる会長およびその補佐役の副会長を選出するにあたり，会員の皆様の意向を伺うためにこの調査を行いました．

意向調査の結果は以下の通りです．

	会長	副会長１	副会長２
得票数	710	583	619
白票	123	100	
無効	11	0	
計	844	—	

会長意思表明者（得票数）
1　宮下　純夫（710）
副会長意思表明者（得票数）
1　渡部　芳夫（583）
2　久田健一郎（619）



ご案内

本会以外の学会および研究会・委員会からのご案内を掲載します．

海洋研究開発機構・Blue Earth'10

海洋研究開発機構が保有する海洋研究船（「みらい」「なつしま」「かいよう」「よこすか」「かいれい」）及び有人潜水調査船「しんかい6500」等の深海調査システムを活用して得られた研究の成果発表を目的として「Blue Earth'10」を開催いたします．

「Blue Earth'10」は，研究分野の枠を越えた情報交換の場を提供するとともに，一般の方にも分かりやすく研究成果を伝え，海洋地球科学技術への理解を深めて頂くことを目的としております．

日時：平成22年3月2日（火）～3日（水）
9：30～18：00
場所：東京海洋大学品川キャンパス
入場料：無料（事前登録不要）
主催：独立行政法人海洋研究開発機構
共催：国立大学法人東京海洋大学
詳しくは，
http://www.jamstec.go.jp/jamstec-j/maritec/rvod/blue_earth/2010/index.html

日本堆積学会2010年茨城大会のご案内

日程：2010年3月26日（金）～29日（月）
26日（金）：ショートコース「石油探鉱データを使用した地下地質堆積環境イメージング」
27日（土）：個人講演（基調講演含む），総会議事，懇親会
28日（日）：個人講演（基調講演含む），最優秀口頭・ポスター発表の表彰，堆積学トーク・トーク
29日（月）：巡検：日帰り2コース「久慈川の源流から河口まで」，「五浦海岸の炭酸塩コンクリーションと常磐地域の第三系」
会場：茨城大学水戸キャンパス茨苑会館
大会参加費（講演要旨集込み）
一般会員　3,000円，会員学生・院生2,000円
非会員　4,000円，非会員学生2,500円

基調講演・特別講演
○牧野泰彦（茨城大学）　「河川・干潟の現世堆積環境」
○佐々真志（港湾空港技術研究所）　「干潟の堆積物動態・生態系に果たすサクションの役割」
個人講演募集
＊講演申込締切：2010年2月12日（金）
＊講演要旨締切：2010年2月19日（金）17時

詳しくは，日本堆積学会ホームページ（URL：http://sediment.jp/）をご覧下さい．堆積学会会員は年会参加費や各種企画の参加時に優遇されます．まだ入会しておられない方は，この機会に是非ご入会下さい．

各賞・研究助成

日本地質学会に寄せられた候補者の推薦依頼をご案内いたします．推薦ご希望の方は締切日半月前までに，理事会までお申し込み下さい．

2010年度地球化学研究協会学術賞「三宅賞」および「奨励賞」候補者の募集

1．三宅賞
対象：地球化学に顕著な業績を修めた研究者
表彰内容：賞状，副賞として賞牌および賞金30万円，毎年1件（1名）
2．奨励賞
対象：2010年4月1日の時点において40才未満で，地球化学の進歩に優れた業績を挙げ，将来の発展が期待される研究者
表彰内容：賞状および賞金10万円，毎年1～2件（1～2名）
3．応募方法：地球化学研究協会のホームページからダウンロードした申請書に，略歴・推薦理由・研究業績などを記入し，主な論文10編程度（三宅賞），2編程度（奨励賞）を添えて，下記のあて先へ送付して下さい．応募書類等は三宅賞及び奨励賞選考のためにのみ用いられます．
4．締切日：**2010年8月31日（火）**
5．地球化学研究協会ホームページ：
http://wwwsoc.nii.ac.jp/gra/
6．応募先：
〒100-8212　東京都千代田区丸の内1-4-5
三菱UFJ信託銀行リテール受託業務部公益信託グループ
（公益信託）地球化学研究基金　江川康治
7．問い合せ：電子メールで下記アドレスへお願いします．
e-mail：＜eitaro1939@yahoo.co.jp＞または＜t-sagi@m3.gyao.ne.jp＞

公募

教官公募等の求人ニュース原稿につきましては，採用結果をお知らせいただけますようお願い致します．

（財）電力中央研究所火山活動評価技術（火山学）研究職員（常勤）募集

1．研究内容
火山活動の評価に関わる以下の手法の研究開発を行います．
(1) 原子力発電所等の重要構造物周辺における火山活動の体系的評価手法の開発並びにその高度化．特に野外地質調査・岩石試料採取等の観測データに基づく実証的評価手法の開発．
(2) 大規模噴火・降灰予測手法の開発．特に噴出物を検討対象として噴火ポテンシャルを評価する手法の開発．

2．求める人材像
火山学に関して以下の知識・経験と意欲がある方を募集します．
(1) 大学等にて火山学に関する基本的な知識を習得して，フィールドにおける調査・研究の経験を有する方．特に噴火現象やマグマなどに関連し，野外調査を基本とした研究を行い，噴火活動史・噴火プロセスを解明して将来の火山活動予測に資するための基礎的実力を有する方．
(2) 火山活動の体系的評価手法・大規模噴火の予測研究における革新的発展を図るため，所内研究員と協力して，噴火活動史・岩石化学分析・岩石物性測定などの手法を用い，火山地質学や物質科学の知識を導入して新たな手法の開発に積極的に取り組む意欲を有する方．
また入所後は，原子力発電所等の重要構造物に係わる地質調査を積極的に行い，社会への貢献を意識した研究を実施することが可能である方を募集します．

当面の研究課題：火山活動評価技術
研究専門分野/専攻学科：火山学
学歴：修士または博士課程修了者（新卒・既卒いずれも可）
応募窓口：地球工学研究所　saiyo_na@criepi.denken.or.jp
（随時受付．詳しくは，http://criepi.denken.or.jp/jp/recruit/11/saiyo/flow.html）

詳細は下記webサイトもご参照下さい．
http://criepi.denken.or.jp/jp/recruit/11/saiyo/kadai.html

平成22年度高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用研究公募要領

公募研究課題

本共同利用研究は，全国の研究者にセンターの施設・設備を提供し，地球掘削科学に資する研究の発展を目的とします．公募は，次のいずれかに関連する研究を対象とします（センター教員・研究者と共同で行う研究（科学研究費補助金など競争的資金等による研究を含む）を含みます）．

a）地下生物圏と海底下における流体挙動に関する研究　b）地球環境変動とその生命圏への影響に関する研究　c）固体地球における物質循環とそのダイナミクスに関する研究　d）その他地球掘削科学に関する研究

研究実施期間

［前期］平成22年４月１日から平成22年９月30日までの一定期間です．

［後期］平成22年10月１日から平成23年３月31日までの一定期間です．

応募資格

a）大学及び学術研究機関に属する研究者（大学院生を含む）

b）センター長が適当と認めた者

提出先

〒783-8502　高知県南国市物部乙200
高知大学海洋コア総合研究センター全国共同利用事務局
Tel : 088-864-6712
E-mail : core-kyodo@kochi-u.ac.jp

申請書提出期限

［前期／前期及び後期］**平成22年２月28日（日）**

［後期］**平成22年８月31日（火）**

採否の決定等

［前期／前期及び後期］平成22年３月下旬予定

［後期］平成22年９月下旬予定

詳しくは，公募要領サイトをご参照下さい．
http://www.kochi-u.ac.jp/marine-core/cooperations/zenkyo/2010/10_youryo.html

CALENDAR

2010.2〜

地球科学分野に関する研究会，学会，国際会議，などの開催日，会合名，開催学会，開催場所をご案内致します．会員の皆様の情報をお待ちしています．
☆印は，日本地質学会行事．

2010年

2月　February

☆関東支部ジオパークを目指して! 秩父地域の観察会と講演会
・ジオサイト観察会「長瀞の岩畳」
・ジオパーク講演会
２月13日（土）　申込締切２月６日（土）
・秩父ジオサイトバスツアー
３月６日（土）　申込締切２月24日（水）
http://kanto.geosociety.jp/

☆西日本支部第158回例会・2009年度支部総会
２月13日（土）
会場：福岡大学18号館
http://www.geosociety.jp/outline/content0018.html

3月　March

☆北海道支部支部総会・個人講演会
３月20日（土）13：30〜17：30
場所：北海道大学理学部６号館
http://www.geosociety.jp/outline/content0018.html

○第２回日本地学オリンピック大会
（兼　2010年インドネシア大会日本代表選抜）
2010年３月24日〜26日
会場：茨城県つくば市
http://jeso.jp/

○日本堆積学会2010年茨城大会
３月26日（金）〜29日（月）
場所：茨城大学水戸キャンパス茨苑会館
http://sediment.jp/

○日本地理学会2010年春季学術大会
2010年３月27日（土）〜29日（月）
会場：法政大学
http://www.ajg.or.jp/

○国際惑星地球年終了記念イベント「惑星地球フォルム2010 inアキバ―君たちと考える環境・防災・資源」
３月27日（土）〜28日（日）
場所：富士ソフトアキバプラザ６階
http://www.gsj.jp/iype/

4月　April

☆関東支部地質技術伝承講演会／支部総会
４月18日（日）13：30〜16：00
場所：北とぴあ（北区王子）
http://kanto.geosociety.jp

5月　May

○火山灰編年・火山活動・人間活動に関する国際野外集会およびワークショップ「アクティブテフラ九州2010」
５月９日（日）〜17日（月）
会場：鹿児島県霧島市霧島市役所
http://www.ris.ac.jp/intav-jp/index.html

○日本地球惑星科学連合2010年大会
５月23日（日）〜28日（金）
会場：幕張メッセ国際会議場
http://www.jpgu.org/

○日本地下水学会2010年春季講演会
５月29日（土）
会場：慶應義塾大学矢上キャンパス
http://homepage2.nifty.com/jagh_gyouji/

7月　July

○第47回アイソトープ・放射線研究発表会
７月７日（水）〜９日（金）
会場：日本科学未来館
http://www.jrias.or.jp/index.cfm/1,html

8月　August

○第12回国際熱年代学会議（Thermo 2010）
８月16日（月）〜20日（金）
会場：スコットランド・グラスゴー大学
http://www.ges.gla.ac.uk/Thermo2010

9月　September

○日本温泉科学会第63回大会
９月13日（月）〜16日（木）
会場：野沢温泉アリーナ国際会議場
問い合わせ：info@nozawa.jp

☆日本地質学会第117年学術大会
９月18日（土）〜20日（月）
会場：富山大学ほか
http://www.geosociety.jp

紹　介

多発する地震と社会安全 ―カリフォルニアにみる予防と対策―

ロバート・S・イーツ　著
太田陽子・吾妻　崇　訳

古今書院，2009年11月20日発行，A５判，
429ページ．定価6,200円（税別）
ISBN 978-4-7722-5241-6

本書は2001年，Oregon State University Pressから発行された Living with Earthquakes in California : A Survivor's Guideの訳である．ただし原著者の意向により，この訳本の第７章はこの原書の前に発行されたLiving with Earthquake in the Pacific Northwest―A Survivor's Guideの第４章に差し替え，また第10章は同書の第９章に差し替えている，とのこと．

著者はアメリカ西海岸で長年にわたって活動してきた著名な活断層研究者である．本書の狙いは，上記の原題（直訳すれば「カリフォルニアで地震とともに生きる－生き延びるためのガイド」）に明瞭である．本書は非専門家を対象にした啓蒙書で，地震の主因であるプレートテクトニクスの解説に始まって地震予知・予測の問題，アメリカ西海岸の活断層とその活動の実際，個人住宅やそのライフラインの地震動対策と補強法，大型構造物の柱や梁の構造など，そして地震保険の問題から州および連邦政府の施策まで，地震とそれによる災害と対策を詳細かつ具体的に解説している．

本書は，４部17章，400ページを越す大著である．第１部：「開発推進者と地震に関心を持つ人々」（27ページ）．ここでは最近300年間におけるカリフォルニア住民と地震とのかかわりの歴史を簡潔に紹介する．人々は最近まで開発に重きをおき，地震の影響を矮小化して捉えようとする傾向が続いたという．第２部「テクトニックプレート・地質年代・地震」（206ページ）．ここでは前半で地震現象とその原因説を，カリフォルニアで起こった実際の地震を例に引きながら丁寧に紹介する．岩石の破壊現象や断層の解説だけでなく，地震現象がかかわる時間の長さを実感するように説き，地質時代の区分法まで詳しく解説する．後半はいわば各論で，まず44ページを費やしてサンアンドレアス断層について，それに続きトランスバース・レンジや南カリフォルニアの山地，一転してオレゴン・ワシントンの海岸山地（カスケード）とその前面の海底，について場所を追って，地震活動史と変動地形・地質を（カスケードについては大きな地震が見られないことについて）詳しく紹介している．後半の記述はあたかも地形と地質の巡検案内を読むような感じで，まさに巡検案内として利用できる．そしてこの長大な第２部を最後に地震予知/予測の問題で締めくくる．

第３部「揺れる大地と巨大な波」（47ページ）では地盤の強度や振動特性から始めて，地震動そのものでなくそれに起因する巨大地すべりと津波が中心の話題となって，第２部の地震の科学を補完する．最後の第４部「予防と対策」（105ページ）では，最初に地震保険についていろいろな角度から解説，ついで個人住宅，そして大規模建造物の耐震問題，地震に対する連邦政府のかかわり方，（この中で，たとえばUSGSその他の研究機関が地震に関して何をしているか紹介されている），州政府，地方自治体のかかわり方，が論じられ，最後を「次の地震への備え（第16章）」「地球との不確実な約束（第17章）」で閉じる．この第４部だけみてもこの本の狙いがどのあたりにあるか，おおよそ見当がつくといえよう．なお，巻末に付録としてカリフォルニアにおける歴史地震表，用語集，参考文献，情報源ウエブサイト表がある．

この本は，その内容が地震に関する科学的問題だけでなく，技術的・社会的問題を広くカバーしている点がユニークである．また一般の人に読まれ，理解されることを意識して，その語り口は具体的で，たくさんの実例やちょっとした脱線，経験談，研究者の風貌や逸話などを随所にまじえている．そのような記述の一例を挙げると，サンアンドレアス断層はサンルイス・オビスポ郡の州道41号線と46号線の合流点付近を通るが，そこはジェームズ・デイーンが自動車事故で命を落とした場所で慰霊碑がある（89ページ），とか，カリゾ平野の右横ずれ谷を見るには「州道00号線を東へ５kmすすみ，南へ曲がって砂利道を6.5km行くと左側に駐車できる広場があって，断層の案内板がある」，といった具合である．住宅の耐震性を論じた箇所では，著者の経験に基づく対処のコツや日曜大工でよくやる失敗を指摘する．そして大きな構造物における耐震補強工事の問題点まで，驚くほどの博識で雄弁に語る．訳書の持ち重りのする厚さに驚いて拾い読みを始めても，その記述につい引き込まれ，何ページも読み進んでしまう．このような内容の本には珍しいことに，読んでいて面白いのである．

著者は，このようないわば技術的なことだけでなく，たとえばカリフォルニア中の橋梁に耐震工事を施そうとしたらそれだけで天文学的な費用がいる．まして他の重要建造物を含めると想像を絶する額になる．そこで重要なことは，公共の建造物について地震後補修したり再建する際の優先順位を決めておくのがよいと提案している．地震に関する理学的な書籍で，地震保険や復興の予算の問題まで解説したものがこれまでにあっただろうか．この本で取り上げられているのは，カリフォルニアにおける問題や対処のしかたではあるが，そこには我が国にも共通し，参考とすべき多くの提案がある．地球科学に関連する多くの人々に一読をお勧めしたい好著である．

なお，訳文は原文に忠実で，丁寧である．だが残念なことに，掲載されている写真のほとんどにモアレがでていて，肝心の被写体の様子が見にくくなっている．これは翻訳の問題ではなくて，出版元の編集者の責任であろう．

（鎮西清高）

新版地質図・報告書類

20万分の１地質図幅「徳之島」

斎藤　眞・尾崎正紀・中野　俊
小林哲夫・駒澤正夫　著

2009年発行，
索引番号　NG-52-13・19・20，
裏面解説付，販売価格2,100円

2009年７月に20万分の１地質図幅「徳之島」が発行された．本図幅地域は，奄美大島と沖縄島の中間位置にあたり，鹿児島県の徳之島，沖永良部島と，沖縄県の硫黄鳥島からなる．地形的には，沖縄トラフと琉球海溝に挟まれた２重弧が特徴的で，沖永良部島と徳之島が前弧側，硫黄鳥島が内側の火山弧に位置する．琉球列島の地質を考える上で重要な地域だが，山中には獰猛なハブが生息するため地質調査が困難な地域でもある．

評者はこれまで，多くの地質関係者から徳之島に分布する蛇紋岩やかんらん岩の話を聞かされたことがある．従来の研究によると，

徳之島は白亜紀の四万十帯に属しているが，四万十帯には異質な超苦鉄質岩が分布するためその帰属についてはよく分かっていないという．何か重要な地質学的問題点を含んでいるように感じ，徳之島の地質図を探したことがあったのだが，詳細な地質情報は得られなかった．そんな中，徳之島図幅が発行された．図幅の作成の中心的な役割を果たされたのは，九州からトカラ列島の秩父帯・四万十帯研究で重要な研究成果を数多くあげられている斎藤眞氏とあって，どのような地質図とその解釈が示されるのか非常に興味があった．

さっそく手に入れた地質図を広げてみると，やはり徳之島には玄武岩に伴って蛇紋岩が描かれている．地質図に示された蛇紋岩の岩体は，北北東-南南西に延びた３枚のシート状の岩体として示されている．凡例をみると，蛇紋岩を含む地層は白亜系の四万十帯付加コンプレックスとされており，裏面の詳しい解説書を読んでみることにした．ちなみに解説書には，本図幅地域に分布する主要３島（沖永良部島，徳之島，硫黄鳥島）の層序と，周辺海域の音波探査層序，琉球弧の地史の比較がなされた年代表がつけられており，本地域の地質概略を理解するのに役立つ．

過去の文献によると，徳之島を構成する付加コンプレックスについては，年代が不明であることや超苦鉄質岩を含むことから，その帰属が秩父帯か，四万十帯の白亜紀付加コンプレックスか見解が分かれていた．解説書によると徳之島と沖永良部島を構成する付加コンプレックスは，主に岩相組み合わせから奄美大島に分布する四万十帯の白亜紀付加コンプレックスに対比できる，とされている．年代決定が不十分ではあるが，徳之島においては，付加コンプレックスを構成するメランジおよび整然相の配列や構成岩石の岩相が奄美大島の四万十帯によく比較できるのであろう．徳之島の四万十帯に含まれる蛇紋岩については，メランジを形成していないこと，シルルデボン系を伴わないことなどから，黒瀬川帯にみられるような蛇紋岩ではなく，鹿児島県の川辺町や愛媛県宇和島市にみられるような四万十帯の蛇紋岩と比較されている．このあたりの解釈は，５万分の１地質図幅「砥用」などで九州の黒瀬川帯を詳しく観察されている斉藤氏の判断は正しいと思う．しかし露頭状況が乏しいためか，周辺の岩石との関係は不明とのことであるので，なぜ蛇紋岩が四万十帯付加コンプレックス中に分布するのかについて結論は得られていない．徳之島の四万十帯中の大規模な玄武岩岩体の起源（海洋島玄武岩，中央海嶺玄武岩など）も含めて今後の検討課題となろう．

徳之島と沖永良部島を構成する基盤岩は四万十帯の付加コンプレックスとされているが，本図幅地域は９割以上が海域であるため，基盤岩の分布や構造を議論するためには海底地形や重力異常に関するデータも必要である．本図幅では，裏面解説書の「４．周辺海域の地質」と「７．重力異常」にこれらのデータが詳細に示されている．新たに測定された重力異常のデータは，海底下から陸上における基盤岩の構造の推定に十分役立つ．付図の「徳之島図幅地域および周辺地域の海底地形と断層」には，沖永良部海盆や与論海盆が正断層群によって形成されたハーフグラーベン構造であることがはっきりと示されている．またそれぞれの海盆の堆積物の音波探査層序の解釈図および対比表も示されており，陸上の地質との対比もなされている．

徳之島，沖永良部島は，第四紀の琉球層群の代表的な研究地域であることも忘れてはいけない．両島の琉球層群は，井龍康文氏，中森亨氏，山田努氏らによって重要な調査・研究がなされており，本図幅の層序区分も基本的にこれらの成果を基礎としている．すなわち琉球層群を従来の地形区分を加味した岩相区分ではなく，海水準変動に呼応し形成された1つのサンゴ礁複合体堆積物と，その同時異相の砕屑物を一つの堆積体として層序区分を行ってある．徳之島，沖永良部島を比較すると随分と琉球層群の分布様式が異なっているようであり，今後与論島や沖縄島の地質図幅が刊行された場合の比較材料として興味深い．

トカラ火山列の南縁部にあたる硫黄鳥島火山については，現地調査をもとに新たに地質図が作成されている．従来２つと考えられてきた火山体が実は３つあったことや，現在活動的な硫黄岳火山よりも南側に位置するグスク火山が地質学的に上位であることなどが示されている．また硫黄鳥島火山起源と考えられる火砕堆積物が徳之島北西部で確認されており，この火山体の周辺域における広域テフラの重要性を示している．

以上簡単に本図幅を紹介したが，課題もひとつ残されている．紙面の都合もあるのだろうが，沖縄諸島に分布する地質体との比較が十分になされていないことである．九州の鹿児島県から沖縄島にかけての20万分の１地質図幅は，2004年に「開聞岳及び黒島の一部」，2007年に「屋久島」，2008年に「中之島及び宝島」と精力的に地質図が発行されてきたが，「徳之島」以南の「与論島」と「那覇」については未刊行である．そのために，沖縄諸島の付加コンプレックスとの対比が十分に行われていないのであろうが，今後発行されるであろう両図幅でその点が明らかにされることを期待したい．

本図幅をはじめ，九州から沖縄の20万分の１地質図幅はかなり整備・充実が進み，これまで琉球列島の地質に関心がなかった読者にも有意義な情報を提供してくれる．特に地質調査が困難な徳之島地域の地質図をまとめられた著者等に，心から感謝申し上げたい．

（尾上哲治）

学会オリジナルフィールドノート 新しくなりました！！

皆様からご好評いただいております，学会オリジナルフィールドノートが新しくなりました．

表紙がビニールコーティングになり，今までよりもさらに水や摩擦・衝撃にも強くなりました．野外調査に最適です．本体の紙は従来と同じく雨に濡れても丈夫なレインガード紙を使用しています．ぜひご活用ください．

サイズ：12×19cm（従来と同じです）．　　カバー：ハードカバー，ビニールコーティング，金箔押し．
色：ラセットブラウン（小豆色）　　会員頒価：500円
ご希望の方は学会事務局まで＜main@geosociety.jp＞

学協会・研究会報告

第５回IGCP516「Geological Anatomy of East and South Asia（東・南アジアの地質学的解剖）」参加報告

堀内　悠（筑波大学生命環境科学研究科）

2009年９月22日～９月30日に，中国雲南省の昆明にて，第５回IGCP516国際シンポジウムが開催された．11カ国（中国，台湾，イラン，フィリピン，ミャンマー，タイ，インドネシア，ポーランド，イギリス，ロシア，日本）から35人を超える参加者が集まり，３日間のプレ巡検，２日間のシンポジウム，４日間のポスト巡検ともに活発な議論が行われ盛り上がった．日本からは，上野勝美，Tin Tin Latt，宮東 照（福岡大），鎌田祥仁（山口大），中澤　努，原　英俊（産総研），久田健一郎，堀内　悠（筑波大）が参加した（順不同・敬称略）．

プレ巡検（９月22～24日）
Successions of the Yangtze Platform since the Jinning orogeny (ca. 800 Ma) exemplified in the areas to the south and east of Kunming

中国地質科学アカデミーのJin Xiaochi博士の案内人により，昆明の南東部周辺に分布するYangtze Platformの層序や化石を見ることができた．６カ国（中国，台湾，インドネシア，イラン，イギリス，日本）から11人が参加し，日本からは３名が参加した．

この地域の下部カンブリア系は多くのPhosphoriteを含み，大規模なPhosphorite鉱山がある．巡検の１日目は，鉱山およびその周辺の露頭を中心に見学した．先カンブリア紀とカンブリア紀の整合境界のタイプセクションでは，岩相層序境界と生層序境界に約７mのずれがあるという．また，カンブリア紀のChengjian fauna（澄江動物群）の産出する露頭では，ちょうど発掘している現場を見学させていただいた．我々も露頭の頁岩を手にとって化石がないか探したが，この時代の化石を見たことがない我々には非常に難しかった．実際に採れた化石を見せていただいたが，層理面の様々な染みのような模様と区別がつかない．コツをつかむ前に時間切れとなってしまい，後ろ髪を引かれる思いで露頭を後にした．カンブリア系とデボン系の不整合露頭も観察できた．デボン紀の地層には驚くほど多くの魚の破片が含まれており，参加者はみな興奮していた．また，Phosphorite鉱山で長年働いている方から，鉱山周辺の地質についての解説があり，様々な種類の化石コレクションを見せていただくことができた．

02. 写真はChengjian fauna（澄江動物群）の発掘現場

２日目はまず，先カンブリア紀の地層を観察した．この周辺に分布する先カンブリアの地層は,当然であるが化石の産出がないため，堆積環境についてほとんど明らかにされていない.我々が地層の堆積環境を判断するとき，いかに化石に頼っているか，ということを思い知らされた．堆積物の特徴を観察し，堆積環境について皆で議論した．次に，石灰岩露頭の見学を行った．みんな夢中で化石を探した甲斐あって，ペルム紀中期の有孔虫を発見することができた．また，玄武岩と石灰岩が直接接する露頭も観察したが、境界が複雑で両者の関係については不明であった.午後は，Chengjian fauna（澄江動物群）が最初に報告されたサイトを保存したジオパーク（澄江動物化石群古生物国家地質公園）にある南京地質古生物研究所の展示施設と，Chengjian（澄江）の街中にある澄江動物化石群博物館を訪れた．

３日目には世界遺産であると同時にジオパークにも登録されている石林を見学．石林の石灰岩地形は非常に美しい景観で，どこまでも続く迷路のようなペルム紀の石灰岩の森を，時間をかけてゆっくり楽しむことができた．ビジターセンター内の博物館では，カルスト地形の成り立ちなどについての展示を見学した.解説パネルには英語表記もあったが,地質についての展示は少なく，地形の発達や人間の生活との関わりなどについての展示がほとんどであった．

Scientific session of the symposium and business meeting（９月25～26日）

９月25日と26日の２日間行われたシンポジウムは，Dianchi Garden Resort Hotel内の会場で行われた．主にアジアの地質について，11カ国からの参加者により幅広い分野から22の口頭発表と７のポスター発表が行われた．特に，南中国からタイやミャンマーにかけての地域地質など，国境をまたがった地質構造

01.

についての議論は各国の研究者を中心に大いに盛り上がり面白かった．アジア全体の地質の解明には，異国間での情報交流は重要で，さらに交流を深め協力し合える関係を作り上げていくために，このような国際シンポジウムは非常に重要であると感じた．また，台湾の地質についての発表では，日本と同様に複雑な地質構造の形成過程について，様々な議論が行われ，今後のさらなる研究の必要性を感じた．２日目の最後にはビジネスミーティングが開かれた．

ポスト巡検（９月25～26日）
The Ailaoshan Belt and its surroundings: composition and structure.

後半の巡検では，プレ巡検と同様に，中国地質科学アカデミーのJin Xiaochi博士による案内でRed River FaultおよびAilaoshan Belt（哀牢山構造帯）に分布する変成帯を中心に見学した．この変成帯は険しい山岳地帯に位置しており，深い谷に刻まれた山脈を横断しながらの巡検となった．巡検ルートは標高差が500m～2000mと非常に大きく，高地の露頭では足のすくむような高い場所に行くこともあった．６カ国（中国，台湾，インドネシア，ポーランド，ロシア，日本）から17名，うち日本からは４名が参加した．

巡検の１日目に，巡検地に向かう途中Red Riverを横断した．橋の上からはるか下を流れる赤い色の流れを眺め，写真撮影をした．Red Riverの西側に沿って，Ailaoshan Belt

03. 写真はシンポジウムの様子

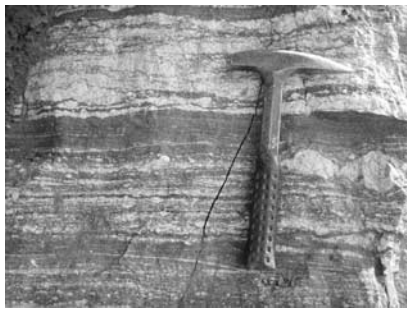
04. 写真は枕状溶岩の露頭．左上のシャベルカーが稼働中で時々石が落ちてくる．

が北西 - 南東方向に分布する．Ailaoshan Beltの中でも東寄りは変成度が高く，西寄りでは変成度が低い．巡検では，Ailaoshan Beltを東から西に向かって横断しながら変成度の異なる岩石を観察した．Ailaoshan Beltの最も西側にはAilaoshan ophioliteの超塩基性岩が分布しており，三畳紀の二枚貝を産出する堆積岩と断層で接している様子も観察できた．また，Ailaoshan Beltより西側にはIndochina Blockの堆積物が分布している．

2日目は，Indochina Blockの堆積物や玄武岩を観察した．玄武岩の露頭では枕状溶岩が見られた．この玄武岩の年代は堆積岩との関係から石炭紀～ペルム紀であるとされている．化学組成などでintracontinental basaltであると考えられているが，ペリドタイトらしい捕獲岩が含まれていることなどから，oceanic plate起源ではないか，など，その起源や形成環境などについて，熱く議論が行われていた．この日の最後は北回帰線博物館を見学した，Mojiang（墨江）は北回帰線の通っている街として知られており，天文学に関するモニュメントがたくさん配置された公園と博物館が街の中心となっていた．

3日目は，Gasa（戛洒）へ向かいながら途中にある三畳紀の石灰岩露頭，Ailaoshan ophioliteの超塩基性岩の大露頭などを観察し，再びAilaoshan Beltの変成岩地帯を西から東へ向かって横断した．GasaはRed River沿いに位置する街で，宿泊地に着いてからRed Riverを見に行った参加者もいた．

最終日は，再びAilaoshan Beltに入り，マイロナイトの露頭を観察した．山の上からGasaの街を望むことができ，Red Riverに脇から合流する扇状地もきれいに見えた．巡検後に訪れたKunming（昆明）のレストランでは，翌日の27日が中国の建国60周年記念日の祝日だったため，たくさんの人で賑わっており，隣のテーブルでは若者たちが威勢よく乾杯・一気飲みをして盛り上がっていた．巡検の間に仲良くなった我々は，その若者たちを見て負けじと大声で乾杯し，IGCP516の成功を祝った．



05. Mylonized gneiss

おわりに

今回のシンポジウムで，私は初めて中国を訪れ，なれない言葉や文化に戸惑うことも多かったが，主催者である中国地質科学アカデミーのJin Xiaochi博士をはじめとするスタッフの方々の心遣いのおかげで，約1週間の間，最後まで安心して楽しむことができた．また，観光の相談から盗難事件の対応，お土産のアドバイスまで，参加者たちから次々と出される私的な要求にも真摯に対応してくださった企画・運営スタッフの方々に心から感謝する．

IGCP507第4回国際シンポジウム「白亜紀のアジアの古気候とそれらの国際的な比較」（熊本）参加報告

吉野恒平（新潟大学大学院自然科学研究科）
石田直人（新潟大学理学部）

IGCP507は「白亜紀におけるアジアの古気候」をテーマに，Yong Il Lee氏（Seoul National University）をリーダーとして活動する国際研究プロジェクトである．その第4回国際シンポジウムが，2009年12月1日から6日にかけて熊本で開催された．「白亜紀のアジアの古気候とそれらの国際的な比較（Paleoclimates of the Cretaceous in Asia and their global correlation）」が今回のテーマで，中でもアジアの脊椎動物の進化にスポットが当てられた．白亜系から脊椎動物化石の発見が相次いでいる熊本は，テーマに良く似合う開催地であった．海外からは韓国9名，中国，フィリピン，インドネシア各2名，モンゴル，ロシア，スイス，アメリカ，カナダ各1名の参加があり，これに日本人を加え，12カ国，約70名の盛況なシンポジウムとなった．その6日間の様子を紹介する．

プレ野外巡検（12月1日～3日）

プレ巡検では，熊本県西部の天草諸島に分布する白亜系，御所浦層群と姫浦層群を小松俊文氏（熊本大），成瀬　元氏（千葉大）らに案内していただいた．プレ巡検には筆者のうち吉野が参加した．

巡検1日目　熊本市からバスに揺られること約2時間，最初の見学地，椚島に到着した．ここには基盤岩を覆う姫浦層群樋島層の基底部が露出している．樋島層基底部は全体としてincised-valleyを埋積した堆積物と考えられており，湾奥デルタ（bayhead delta）が後退する様子を記録している．層厚にしてわずか数10mの間に堆積相や二枚貝化石の構成が大きく変わり，堆積盆の発達が迅速に進行した様子を感じ取れた．

椚島を後にした一行は，海上タクシーに乗り換えた（写真1）．海上タクシーとは，点在する島を自在に結ぶチャーター船で，天草では便利な海上交通手段として利用されている．30分ほど海を進み，御所浦島に上陸した．訪れた天草市立御所浦白亜紀資料館には，御所浦島や天草地域から産した白亜紀や新生代の化石が収蔵されている．アンモナイトや二枚貝化石のほか，恐竜や哺乳類などの脊椎動物化石の展示も充実していた．また，天草の地質に関する展示もあり，地域全体の概要を知るのに役立った．

写真1：プレ巡検で利用した海上タクシー．

観察を終えて宿に着くと，離島にいることを実感する，盛り沢山の海鮮料理が用意されていた．私たちは国の内外を問わず大いに舌鼓を打った．満たされた腹をさすりながら，大部屋に敷かれた雑魚寝の布団にもぐり込み，初日を終えた．

巡検2日目　朝から海上タクシーに乗り込み，御所浦島南東海岸の採石場に向かった（写真2）．この採石場には，御所浦層群烏帽子層嵐口崎部層のエスチュアリー堆積物と，江の口層外平部層の外浜堆積物と内側陸棚の堆積物が露出している．中でも外平部層の二枚貝を主体とする化石密集層は圧巻であった．サンカクガイの見事さに，筆者は思わず

化石採集に熱中してしまったのだが，後から巡検案内書を読み返し，二枚貝化石の現地性程度の評価，群集構成，堆積環境との対応など，小松氏による緻密な研究がなされていることを知った．しまったと思ったが後の祭りである．

この地点の観察を終え，ほとんどの方が立ち去ったその時，鎌田耕太郎氏（弘前大）が嵐口崎部層の最上部に材化石を見つけた．材は層理面に対してほぼ鉛直な方向に伸び，分岐した根が見られる．20本以上もの材化石が典型的な自生産状を示すという，貴重な発見であった．

再び海上タクシーに乗り，今度は天草上島へ向かう．前日訪れた椚島の対岸にあたる和田の鼻に露出しているのは，姫浦層群樋島層の砂岩泥岩互層と随伴する礫岩層やスランプ層で，斜面相の堆積物と解釈されている．ここは有名な化石産地であるが，土石流堆積物と半遠洋性泥岩のそれぞれから産する二枚貝化石群集は種構成が異なり，化石の破片化度にも差があることが容易に見て取れた．奈良正和氏（高知大）による丁寧な生痕化石の説明も加えられ，多様な視点からこの露頭を理解することができた．

宿に戻ると，この日もてんこ盛りの海鮮が準備されていた．夕食はやがてカラオケ大会になり，大学の校歌やら自国の民謡やらが次々披露され，夜は更けていった．

巡検３日目　御所浦を離れ，やがて天草上島に上陸するとバスが待っていた．熊本への途上，天草上島北東部の阿村と宇土半島北岸の網田の海岸に立ち寄り，姫浦層群樋島層から阿村層にかけてのチャネル・レビー複合体からなる海底扇状地相の堆積物を観察した．中でも網田海岸の露頭で見られた，土石流堆積物に伴うスランプ層は見事であった．折り畳まれたスランプ層は，シンポジウムのポスターや巡検案内書の表紙にもなっており，現地で「ふとん岩」と呼ばれているのだという．なるほど，がばっと起床した痕跡の様で，良く言ったものである．

網田海岸でプレ巡検は終了となった．天草諸島の白亜系は海岸沿いに良好な露出があり，どの地点も風光明媚な景観の中での見学であった．非海成相から海底扇状地相まで多様な堆積物が見られ，軟体動物化石の産状とも合わせて観察しやすい．堆積相について初学者の筆者（吉野）にとって，観察の容易さは何よりありがたく，丁寧な解説と相まって充実した３日間になった．

シンポジウム（12月４，５日）

熊本大学において，２日にわたりシンポジウムが開催された．初日がテーマセッションとポスターセッション，２日目がレギュラーセッションである．講演件数は，口頭発表が28件（基調講演２件，テーマセッション５件，レギュラーセッション21件），ポスター講演も28件であった．

テーマセッション・ポスターセッション　前日までの陽気とは一変した初冬らしい空気の中，熊本大学工学部100周年記念ホールにおいてオープニングセレモニーが始まった．西山忠男氏（熊本大前副学長），組織委員長の平野弘道氏（早稲田大），そしてプロジェクトリーダーのLee氏の挨拶があり，シンポジウムが開会された．

写真２：御所浦島南東海岸の採石場にて記念撮影．

テーマセッション「白亜紀のアジアの脊椎動物の進化（Vertebrate evolution in Asia during the Cretaceous）」は，Kirk R. Johnson氏（Denver Museum of Nature and Science）の基調講演から始まった．東アジアと北米西部の白亜紀後期の古植生や古気候，動物相についてのレビューに本人の視点を加えた内容に，ユーモアが織り交ぜられて聴き応えがあった．引き続き５件の講演によって，魚類，海棲爬虫類，哺乳類，そして恐竜と，白亜紀の脊椎動物に関する話題提供がなされた．

午後，口頭発表の後はポスター発表となり，２時間のコアタイムの間，ポスターの前で活発に議論する姿が見られた．また，コアタイムと並行して，一般参加者に向けた日本語によるテーマセッションの解説が真鍋　真氏（国立科学博物館）によっておこなわれた．本シンポジウムは様々な趣向が凝らされていたが，これも参加者に対する丁寧なケアの一例である．

コアタイム後の「コケムシ」に関するワークショップはユニークな企画であった．シンポジウムにワークショップを取り入れるのも面白い試みだが，さらにコケムシというテーマ選択は専門家がいてこそであろう．まず，Matthew H. Dick氏（北海道大）の基調講演により，コケムシの生態や分類，進化などの解説があった．整然と章立てされ，これだけでも面白い講義であったが，さらに会場に９台の実体顕微鏡が準備され，今聴いたコケムシの特徴を現生種や化石種を観察して確認できたのである（写真３）．

この晩のウェルカムパーティーでは，辛子蓮根や馬刺，球磨焼酎，熊本の樽ワインなどが準備され，熊本の味を堪能しながらあちこちで話に花が咲いていた．地元の邦舞会の方々によって伝統舞踊の「山鹿灯籠」や「おてもやん」も披露され，これもまた一興であった．

レギュラーセッション　この日は朝から天気雨だったが，水を差されることもなく，セッション会場には続々と参加者が集まった．レギュラーセッションは，古生物，古気候，堆積，テクトニクスの４分野に分けられており，古生物ではWan Xiaoqiao氏（CGU,北京），古気候ではH. Weissert氏（ETH-Z，スイス），テクトニクスではG. Kirillova氏（Russian Academy of Sciences）など，各国の代表が包括的な研究成果を講演した．さらには，日本や韓国の若手たちによる意欲的な講演がいくつも見られ，また，フィリピンの若手によるオフィオライトの研究は，データの質・量共に大きく前進しているようであった．

セッションを終えての筆者（石田）の感想を簡単に記す．IGCP507は，炭素同位体比曲線による広域対比というテーマを追求する一方で，セッションでの研究対象や議論の内容が広範過ぎるのでは，との点が以前から指摘されていた．今回も確かにその傾向は感じられたが，それは「アジア」と「白亜紀」という２つのキーワードのみで，多様な地質背景のアジアの国々を結んでいるためであろう．ここで確実に言えるのは，アジアの研究フロンティアからは続々と新事実が報告されていること，そして，IGCP507にはそれを集約する機能があることである．アジアに広く門戸を開く姿勢は，岡田博有氏のIGCP350，平野氏のIGCP434からの方針なのであろう．私はIGCP507がスタートしてから初めての参加であったが，この点は以前から一貫しているよ

写真３：ワークショップの様子．実体顕微鏡でコケムシを観察中．

うに感じた．今回，日本の若手は常に元気だったが，残念なことに海外からの学生参加は韓国とフィリピンからだけであった．これは昨今の経済情勢を見れば仕方ないことであろうか．

ポスト野外巡検（12月６日）

熊本県中部の御船町やその付近に分布する上部白亜系御船層群からは，1979年に本邦初の肉食恐竜化石が発見され，ここ10年ほどの間にも脊椎動物化石の報告が相次いでいる．ポスト巡検は，池上直樹氏（御船町恐竜博物館），真鍋氏にご案内いただき，御船層群の恐竜産地と恐竜博物館を見学した．

御船町へ移動し，まず訪れたのは天君ダム近傍の恐竜産地である．池上氏の説明では，骨化石は赤紫色の泥岩層に挟まれる礫質砂岩中に，残留堆積物として含まれるという．解説の後，露頭全体を保護していた緑色のネットが開けられ，参加者は採掘にかかった．骨探しの要領を得ない筆者であったが，ここでは指導者には事欠かず，側にいらっしゃった長谷川善和先生（群馬県立自然史博物館）にご指南いただいた（写真４）．１時間ほどの間に，カメらしい化石や何かの骨片を見つけた方がおり，脊椎動物化石に対するこの地層の潜在力の高さがうかがえた．

恐竜博物館では，入口に鎮座するティラノサウルス像が一行を出迎えた．博物館には，御船層群産の脊椎動物や軟体動物化石をはじめ，国内外の恐竜の骨格標本が展示されていたほか，日本で初めて肉食恐竜が発見された際のエピソードも紹介されていた．この日は日曜日ということもあり，家族連れの来館者が多く見られた．限られたスペースながら展示は充実しており，きっとリピーターも多いことだろう．印象深かったのは，昼食のお弁当にアパトサウルスの折り紙がそっと添えられていたことで，海外から研究者を迎えるにあたり，御船の方が折って下さったそうである．

昼食後，ティラノサウルスの足元で記念撮影をした一行は，熊本市に戻った．訪れた熊本城で，海外の参加者たちは城内を歩くサムライやニンジャと写真を撮って楽しんでいたが，やがて日が傾きはじめ，一人，また一人と帰路についていった．残った者は，戻ったホテルのロビーでコーヒーを片手に雑談していたが，再会を約束して解散となった．

全日程を終えて

このシンポジウムは，インドでの開催予定が頓挫し，急遽熊本に変更されたそうである．時間に制約された中での準備だったと拝察するが，それを感じさせない完成度の高いシンポジウムであった．これは，現地での準備を担当された小松氏の入念な計画と準備委員会との連携の賜物であろう．また，自発的に運営を進める会場スタッフの意識の高さにはたびたび感心させられた．この場を借りて，平野弘道氏を代表とするIGCP507準備委員会の方々，スタッフの方々，IGCP507国内コーディネーターの長谷川　卓氏（金沢大），そしてプロジェクトリーダーのYong Il Lee氏とコ・リーダーの坂井　卓氏（九州大）に心からお礼を申し上げる．なお次回，第５回シンポジウムはインドネシアで開催されるとのことである．

写真４：ポスト巡検では御船層群の恐竜産地を見学した．

国際惑星地球年（IYPE ）リスボンイベント参加報告（1）（2009年11月20-22日）

IYPE国内委員会　委員長　**佃　栄吉**（産業技術総合研究所）

国際惑星地球年IYPE活動の終了イベントが2009年11月20日から22日にかけて，ポルトガルの首都リスボン市のカモンエス劇場，知識パビリオン，海洋館を会場として開催された．日本からは，佃のほか，小玉喜三郎IYPE日本会長，および日本地質学会・東京地学協会から推薦され，イベント実行委員会から招待された戸丸　仁さん（東京大学）と高木悠花さん（早稲田大学）の２名の学生も参加した．

開会式では，ポルトガル共和国シルバ大統領の歓迎のビデオメッセージのあと，ポルトガルユネスコ国内委員会のグイマラエス委員長，IYPEリスボンイベント実行委員長のマルダーIYPE事務局長，ユネスコ事務局長（エルデレン自然科学担当副事務局長による代読），リカルディIUGS会長などの挨拶が続いた．開会のセレモニーは80の国内委員会の代表及び招待された学生200人を含め，650人が参加して盛大に執り行われた．日本国内委員会は活動実績を高く評価され，アンゴラ，オーストリア，カナダ，ブラジル，フランス，ドイツ，ハンガリー，イタリア，オランダ，ノルウェー，ポーランド，ポルトガル，スウェーデン，タンザニア，イギリス，及びアメリカとともに17の優秀国内委員会の一つとして，初日のセレモニーの最後に表彰され，記念のタイルを贈呈された（写真１）．

参加した戸丸さん，高木さんは，他の学生とともに舞台に上がり，IYPEのためにつくられたジオソングを歌うなど，積極的に交流を深めていた．戸丸さんは２日目に行われた海洋セッションで指名され冒頭のプレゼンテーションを行った（写真２）．IYPEのロゴに添えられた今までのメッセージ“Earth Science for Society”（社会のために地球科学）から“Present for the Future”（未来への贈り物）へと変えられていたのが印象的であった．また，IYPEの活動の基礎に，政策決定者に地球科学の役割を伝えること，若い世代の地球科学研究者層を充実させることがあったが，今回のイベントは，将来に向け若

写真１．活発な活動を行った17の各国国内委員会の表彰．日本もその栄誉を受けた．ポルトガルの伝統技術により地球が描かれた手書きのタイル絵が分割されたものを記念として受け取る小玉IYPE日本会長．

い研究者にどのように引き継いでいくのかを意識したイベントとなったと感じた．

なお，日本では国内の活動の最後として，「惑星地球フォルム2010 in アキバ-君たちと考える　環境・防災・資源-」と題したイベントを2010年３月27日（土）～３月28日（日）に，若者の街，アキバでの富士ソフトアキバプラザ６階（JR秋葉原から徒歩２分）において開催する．青少年や一般の方々に向けた講演会やテーマ展示などが企画され，テーマ展示では「環境」「防災」「資源」の３テーマをとりあげて，最新の成果をわかりやすく解説するとともに，主として未来を担う青少年を対象にメッセージを発信することを意識しての開催である．多くの方々の参加を期待したい．

写真２．海洋の会議で冒頭の発表者として指名された東京大学の戸丸さん．

国際惑星地球年（IYPE）リスボンイベント参加報告（2）

戸丸　仁（東京大学大学院理学系研究科地球惑星科学専攻）
e-mail: tomaru@eps.s.u-tokyo.ac.jp

2009年11月20日から22日までポルトガルの首都リスボンで行われた国際惑星地球年（IYPE）のイベントに実行委員会より招待され参加した．2007年以降，日本ではIYPE日本を中心として，関連する学会の開催だけでなく，国際地学オリンピックの参加，ジオパークの整備，地質の日の制定などがおこなわれてきたが（http://www.gsj.jp/iype/index.htmlを参照），本イベントはIYPE参加国で行われているさまざまな活動のいわば総まとめとしての終了式典である．関連する機関の代表者のあいさつから始まり，活動報告，会議などが２日間にわたりいくつかの会場に分かれて行われ，盛大な催しとなった．通常の学会とは異なり，マスコミのブースがあったり，ジオ・ソングとして学生の合唱があったり（http://www.planetearthlisbon2009.orgからダウンロード可），夕食会を博物館内で開催したりと，IYPEらしい遊び気たっぷりのイベントであった．

再生可能エネルギー，持続的土地利用 - 水管理，海洋の３つに分けられた会議では，研究者だけでなく関係する政治家からも発表があり，エネルギーや環境問題といった地球惑星科学的な側面を持つテーマについて学会と社会が積極的に融合していこうとする意気込みが感じられた．それぞれの会議の冒頭では学生による５分程度の発表が行われ，会議のテーマに対して学生としての問題意識や意見が述べられた．海洋の会議では幸運にも（？）私が冒頭発表をすることとなり，現在研究を進めているメタンハイドレートの環境へのインパクトについて日本海東縁地域の例を写真や動画を交えて紹介した．一般の方や異なる分野の研究者に対して，短時間で新しいことをサイエンスとして正確に，しかも自分の価値観を踏まえて伝えることは大変であったが，発表後の小休憩では研究者だけでなく，政治家や学生ともいろいろな意見交換ができ有意義であった．国連の関係者からはサイエンスとして非常に面白い，と評価していただいたほか，「学会だけでなく一般人を対象にしたシンポジウムのようなものでもっと積極的に情報を発信すべきだ」との，お叱りの言葉とも受け取れるアドバイスもいただいた．これまでの自分の活動を振り返ると，確かに学会に対しての情報発信はし続けていたが，社会の動きに対しては鈍感になってところがあり，目を覚まされた思いである．

式典全体を振り返るとIYPEの基本理念に則して，地球環境問題を接点としての学会から社会へのアウトリーチ活動のほか，積極的に学会・社会活動を若い世代につないでいこうという志向を強く感じた．本イベントに先立ち，2009年10月にはIYPEのレガシーイベントとして北京でYoung Earth-Scientists Congress（YES Congress）が開催されており，その成果報告のほか，今後どのようにこれらの活動を展開していくのかについても話し合われた．私は研究発表のためYES Congressにも参加したのでこの場をお借りしてそちらの報告も行いたい．

YES CongressはIYPE活動の一環として行われた35歳以下の若い研究者を対象とする地球惑星科学関連の国際学会である．14テーマの口頭発表とポスター発表，それらに関連した７テーマの円卓会議を中心に行われた（詳細はhttp://www.yescongress2009.org/index.phpを参照）．各テーマが大枠で分けられたこともあり，発表ではオーバービュー的なものが多かったが，若手同士で話を深めるにはいい機会であった．残念なことにキャンセルされた口頭発表が多かったが，その分一つ一つの発表に時間を割くことができ，丁寧

図１：リスボンイベントが開催されたカモンエス劇場．

で落ち着いた学会であった．円卓会議は「天然資源とその持続的利用」というIYPEらしいセッションに参加したが，こちらも研究者だけでなく企業や大使館の関係者など様々な分野の人が招待されており，それぞれの立場での取り組みなど幅広い話が紹介された．会議では最終的にそれぞれのテーマに対して若手研究者からのメッセージを発信することを目的に，後半さらに小グループに分かれて話し合いがもたれた．参加者の距離が近くなった分，話が脱線することも多かったが，会議の前半では出てこなかったそれぞれの国のエネルギー開発事情などを紹介しあった．私が参加したグループではアジアやアフリカ地域からの参加者が多く，日本も含めた先進国からの支援や協力の状況などを受ける側の意見を聞くことができた．参加者が若手ということもあり，計画が進むと全体像が把握できなくなる，といった意見もあったが，基本的には途上国でもエネルギー資源の開発時には環境への影響を十分に考慮しているということ，しかし実際には費用対効果などの面で必ずしも十分でないのが実情であること，などが多く挙げられた．

IYPEとしての活動はリスボンでの式典でいったん区切りがついたが，地球惑星科学会としては社会へのフィードバックの一つとしてこれらの活動を継続する必要はあるだろうし，その下地は日本国内を見ても整いつつあると感じる．ただし，私自身がIYPEのイベ

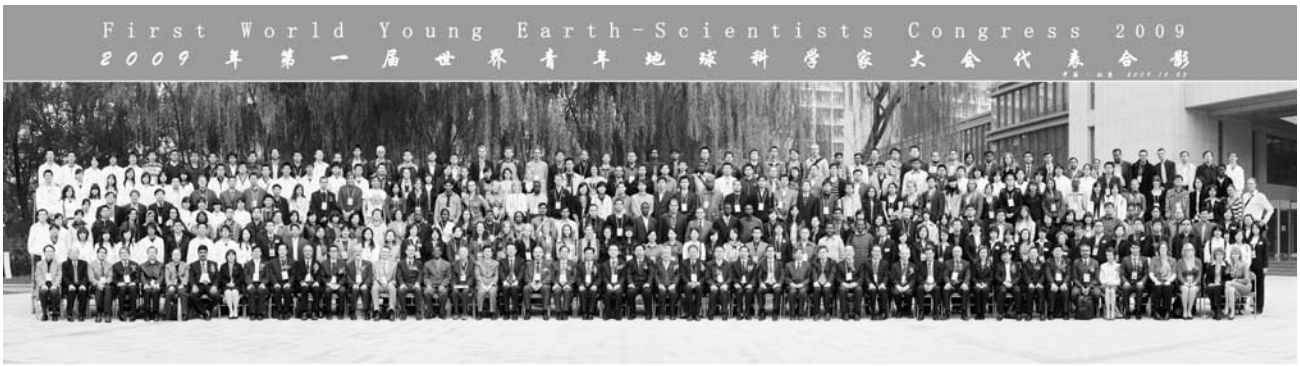


図２：YES Congressの参加者集合写真.

ントに関わりだしたのが終了式典の数か月前だったように，「聞いたことはあるが，どのような活動なのかよくわからない」というのが多くの若手研究者の意見だろう．関係者の方々の努力のおかげで出来た下地を整え，実のあるものにしていくのがIYPE以降の課題であり，若手研究者の義務の一つであると思う．これらの活動を学会と社会の接点とするだけでなく，熟練研究者と若手研究者の接点の一つとしても活用できれば，活動の幅も広がるのではないだろうか．

国際惑星地球年（IYPE）リスボンイベント参加報告（3）

高木悠花（早稲田大学教育学部理学科地球科学専修３）

11月20日から22日にかけて，国際惑星地球年（IYPE）の終了イベントがポルトガルのリスボンで開催された．日本からのIYPE studentとして参加した模様を紹介する．

このイベントでは,「再生可能エネルギー」,「持続的土地利用と水管理」,「海洋」の三本柱をメインに，科学者，政治家，産業の代表者らからの発表が行われた．これらに加えていくつかの小会合が開かれ，私を含め各国の学生は若手科学者会合（YES Conference）のほか，Geo-Songのパフォーマンス（写真２）にも参加した．YESの会合では“What should our generation do to promote geoscience in younger generations？”という質問が投げかけられ，各人が意見を紙に書いて壁に貼るという形で意見交換がなされた．「地学の授業を増やす」,「巡検に連れていく」などの意見が出されており，どこの国も地学教育に関して問題意識があるのだと感じた．またイベントの副題にあるEarth Science for SocietyやPresent for the Futureのためにも，研究のみならず，地球科学の面白さやその役割を伝えること，若手の科学者を育てていくことの必要性というものが強く示されているように感じた．

写真２：80カ国の学生によるGeo-Songパフォーマンス.

YES会合の場以外でも，各国から来た学生たちとは交流を多く持つことができた．宿泊先は６人の相部屋だったため，私の部屋は日本，モザンビーク，スリランカ，ニュージーランド，ベルギー，オーストラリアという国際色豊かな顔ぶれで，寝食はもちろん，観光へ一緒に出かけることもあった．観光先の古城では，外壁に入っている化石を見つけてお互い報告しあったり，目の付けどころが同じだなあと共通点を感じる場面もあった．日本にいても同じ地球科学を学ぶ学生というのは非常に少ないだけに，興味関心や志を同じくする世界中の学生と知り合うことができたのはとても貴重な体験であった．

写真１：会場のカモエンス劇場前にて，アジア地域からの学生集合写真.

今回のイベントで印象に残っているのは，IYPE終了についてどなたかが言われていた，“Every year should be IYPE.”という言葉である．国際惑星地球年は日本では2010年３月をもって終了となるが，毎年がIYPEという意識で今後も活動を盛り上げていくことが求められているのだと感じた．自分はまだ学部三年で地球科学については全くの初心者にすぎず，このイベントで掲げられていたことを実行に移す側ではない．だが今後もその理念は忘れずにいたいと思う．最後に，このような貴重な機会を与えてくださった方々に心から感謝申し上げる．

第１回惑星地球フォトコンテスト審査結果

応募作品全436作品のうち，上位入選作品は以下の14作品に決定いたしました．なお，2010年３月27・28日に行われるIYPE日本のイベントにて，表彰・展示会を開催の予定です．

第１回惑星地球フォトコンテスト審査委員会
委員長　白尾元理
委員　宮下純夫・佃　栄吉
中山大地・坂口有人

	氏名	タイトル	応募部門
日本地質学会長賞	松山幸弘	麦圃生山・植生回復	一般・B
IYPE名誉会長賞	蓮村俊彰	地底へ続く道	一般・A
審査委員長特別賞	中西康治	作者は，地球.	一般・A
優秀賞（A部門）	北川太郎	石の木	一般・A
優秀賞（B部門）	荒木一視	支笏湖湖底	一般・B
入選	佐藤　忠	赤い岩	一般・A
入選	加藤幸雄	エンルム岬	一般・A
入選	横山　光	祝　洞爺湖有珠山ジオパークGGN登録！	一般・A
入選	横山栄治	山河	一般・A
入選	渡辺修二	奇跡のアーチ	一般・A
入選	菅野照晃	羊蹄の朝	一般・A
入選	辻森　樹	北米－カリブプレート境界の蛇紋岩	一般・B
入選	岡田　治	重力	一般・B
入選	三木万理子	阿波の土柱（2）	高校生・B

入選作品の詳細は，学会ホームページをご参照下さい．なお，写真は表彰式後にHPで公開の予定です．

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ1

「箱根火山たんけんマップ　一今，生きている火山」

A2版両面フルカラー印刷.
ハンディタイプで野外での観察に最適です.
教材としてもぜひご活用下さい.

小・中学生向け地質リーフレット新登場.
さあ！フィールドたんけんに出かけよう。

購入希望の方は、学会事務局まで．<main@geosociety.jp>　電話03-5823-1150

会員頒価　300円

地学教育のページ

地元に産する高級石材「竜山石（凝灰岩）」の研究でグランプリ受賞

川勝和哉（兵庫県立加古川東高等学校教諭・地学部顧問）

地学部は2005年，川勝が現任校に赴任したことを機に本格的に立ち上げた．以降，オリジナリティーとプライオリティーにこだわること，身近なテーマを取り上げること，グループ研究を基本とすること，特別な分析機器を用いることなく研究成果を得ること，専門学会や文部科学省認定の科学コンテストで評価を問うこと，地元の小学生を対象にした「移動実験教室」を主宰し，地域貢献事業を積極的に行うこと，を柱にして活動を続けている．初年には，日本地質学会（京都大会）の「小さなEarth Scientistのつどい」で角閃石の累帯構造についての発表を行った．その後，地元に広がる花崗岩や凝灰岩のマグマ残液流体相による影響や，シャボン膜とpHとの相関関係についてなど，いくつかのテーマについて並行して研究するようになり，毎年，「神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞」や「筑波大学“科学の芽”賞」などの論文審査コンテストや，「日本学生科学賞」および「JSEC（ジャパン・サイエンス・アンド・エンジニアリング・チャレンジ）」への出展，日本地質学会や日本物理学会での発表などを行ってきた．応募した研究はいずれも全国大会上位の入賞を果たし，その成果は科学雑誌「ニュートン」でも詳しく紹介された．

「神奈川大学全国高校生理科・科学論文大賞」への応募は，今年が連続４回目の挑戦になる．１年目は努力賞，それでも学校は受賞にわいた．その後優秀賞が２年続き，ようやく今年大賞を受賞することができた．審査員は長倉三郎，上田誠也，田畑米穂，中村桂子，細矢治夫，竹内敬人，永田一清の先生方で，73編の研究論文の応募があったようだ．川勝の恩師である山口佳昭先生（信州大学名誉教授）をはじめとする多くの先生方の助言をいただいたからこその受賞だ．研究は，地元の凝灰岩石材「竜山石」の青・黄・赤３色の色相変化の原因をマグマ残液流体相の循環とそれに続く風化変質に求め，それを膨大な加熱実験結果の積み重ねによって検証したもの．地道な野外調査から地質図を作成し，採取した岩石試料をさまざまな温度・時間条件で加熱し，それらを薄片にしてひたすら偏光顕微鏡による観察を続けた．地味な作業を延々と続ける力は，創部以来先輩から引き継がれてきたものだ．多くの科学研究コンテストでは，天文分野以外の地学研究はなかなか理解してもらえない現状がある．説明が粗くて下手だという問題ではない．研究内容を説明しようと教科書に太字で書いてある用語を用いると，「難しい専門用語を使われると理解できない」と指摘されることも珍しくはない．そのような状況の中で，それでも部員たちは自分たちの研究の意義を信じて活動を続けてきた．神奈川大学の論文審査で高い評価を得ることができ，部員達は「飛び上がるほど嬉しい」と満面の笑顔になり，顧問は「ほっとした」と感慨無量になる．

今回グランプリを受賞した研究のテーマは，「マグマ分化末期の流体相の状態を推定する～凝灰岩の加熱実験から，その赤色化を指標にして～」で，27名の地学部員によるグループ研究である．西南日本内帯に位置する兵庫県南東部加古川市～高砂市には，白亜紀後期の流紋岩～流紋岩質火砕岩・凝灰岩類が広く分布している．火砕流堆積物は，漸移する流紋岩質結晶ガラス質凝灰岩と流紋岩質細粒凝灰岩からなり，溶結の程度がさまざまに異なる．この後に，形成されたカルデラに水が浸入し，そこに流紋岩溶岩が噴出した．自破砕溶岩の縁には，凝灰岩がハイアロクラスタイトとして固結した．この凝灰岩は均質で美しく，「竜山石」と呼ばれている．「竜山石」は石材として古墳時代前期から畿内の石棺などに広く用いられており，仏塔や姫路城の石垣をはじめ，現在では皇居や国会議事堂の壁材としても用いられている．

「竜山石」には，淡青色，淡黄色，淡赤色の３色の色相がある．本来淡青色として固結するが，完全に固結する前に流紋岩質マグマの熱水残液の影響を受けた部分は，鉱物の再平衡がおこって酸化鉄鉱物や白雲母，カルサイトが晶出し，淡赤色化した．固結後，雨水などによる風化変質作用を受けると，地下深部に新鮮な淡青色部分をブロック状に残して，水酸化鉄鉱物を二次的に晶出させ淡黄色へと変化した．このとき，熱水の影響を受けていた部分には水酸化鉄鉱物が濃集し，赤色がより顕著にあらわれるようになった．

さらに，バーナーによる部分加熱実験や，加熱炉を利用した定値加熱及び昇温加熱実験の結果から，次の４点が明らかになった．(1) 竜山石の赤色化には赤鉄鉱の晶出が大きく影響している．(2) １気圧条件下で700℃相当のエネルギーをもった流体相が，マグマから分離して発泡しながら急激に節理面に沿って上昇し，淡青色凝灰岩の側壁を赤色化させた．(3) 赤鉄鉱を形成したFeは熱水流体相がもたらした可能性が高い．(4) 流体相の発泡によって生じたO_2が酸化の原因だと考えられる．

記念講演会と授賞式は３月13日に神奈川大学で行われる．研究論文は「未来の科学者との対話Ⅷ」として日刊工業新聞社から５月に出版される．地学部はすでに，金鉱や地元の流紋岩についての新しい研究活動を始めている．

TOPIC

糸魚川ジオパークinうえの（講演会および体験イベント）

茨木洋介（糸魚川市フォッサマグナミュージアム/新潟大学自然科学研究科）
松岡　篤（新潟大学理学部地質科学科）

2009年12月12日（土）13：00～16：30，東京都台東区上野公園内の国立科学博物館（以下，科博）の日本館２階講堂において，「糸魚川ジオパークinうえの」を実施した．この行事は，2009年８月22日に世界ジオパークに認定された糸魚川ジオパークについて，より多くの人に知ってもらい，さらに糸魚川に来てもらうことを目的として計画された．行事の概要について紹介するとともに，当日の模様を時間を追って報告する．

行事の概要

新潟大学理学部地質科学教室は，以前から糸魚川市のフォッサマグナミュージアムと調査・研究の面で協力関係にあった．新潟大学理学部は2009年に糸魚川ジオパーク協議会に加入して，ジオパークに関して緊密に連携している．新潟大学理学部の展示施設「サイエンスミュージアム」には糸魚川ジオパークに関する展示や糸魚川市の出版物の紹介がある．また，2009年９月１日～11月29日には，新潟大学あさひまち展示館で「糸魚川ジオパーク展」の開催，同年11月15日には，新潟大学駅南キャンパス「ときめいと」で，講演会と体験イベントを合わせた「糸魚川ジオパークin にいがた」の開催と，連携行事を積み重ねてきた．

科博での今回の行事は，科博が様々な大学等と提携して実施している「サイエンスフェスタ」（大学などの研究機関が実施する最先端の研究をわかりやすく紹介する企画展示）に，新潟大学が「みずから学ぶ環境」をテーマに参加することをきっかけに計画された．科博の「講堂」（日本館２階）を半日借りて行事を実施し，新潟県から離れた首都圏で，より多くの人に糸魚川ジオパークについてPRすることを目的とした．

行事の内容は，糸魚川ジオパークを紹介する講演会「ジオパークを学び・遊び・楽しもう」（14：00～15：00），体験イベント（「化石のレプリカをつくろう」，「液状化現象実験装置をつくろう」，「化石のスケッチ」，「古生物ぬりえ」（13：00～16：30），クイズ大会（15：15～）からなっていた．また，会場の壁際に展示ボードを並べ，糸魚川ジオパークの紹介パネル，糸魚川産のヒスイの加工品などの特産品，博物館発行の書籍などを展示した．行事の実施には，糸魚川市から３名（学芸員１名，ジオパーク推進室職員２名），新潟大学理学部地質科学科から13名（教員２名，技術補佐員２名，大学院生・学生８名，博物館に勤務する卒業生１名）の計16名が携わった．

実施日当日

スタッフは午前９：30過ぎに会場に入り，11時までに会場設営を済ませた．会場である講堂は，科博の展示室の主な動線から外れたところにあるため，一般の見学者を会場に誘導するために，チラシの配布や会場への誘導・呼び込みなど集客の手段を講じる必要があった．12：30ごろからチラシを配布しはじめた．また，サイエンスフェスタのメイン会場である地球館地下１階の特別展示室でも，今回の行事についての情報を告知していただいた．12：40に，あらかじめ依頼してあった行事案内の館内放送が流れ，会場に小学生と親子連れが集まり始めた．12：50にもう一度放送が流れ，さらに入場者が増えた．13時開始の予定であったが，会場に行列ができ始めたため12：50頃に体験イベントをスタートさせた．体験イベントは，予想どおり化石のレプリカづくりが大人気で，順番待ちの行列は開始時間からずっと途切れることがなかった（写真１）．レプリカづくりの雌型は二枚貝・三葉虫・アンモナイト・巻貝の４種類で，レプリカの材料となる樹脂を６色用意し，参加者が自由に選べるようにした．

順番待ちの参加者やレプリカづくりを終えた参加者は，液状化現象実験装置（エッキー）づくり，化石のスケッチ，ぬりえに挑戦した．液状化現象実験装置のコーナーでは，地震によって起きる液状化のしくみについて，子どもにもわかるように説明をしながら，実験装置を作成した（写真２）．また，化石のスケッチのための標本としては，糸魚川産のアンモナイト，二枚貝，腕足類などを使った．古生物ぬりえは，オリジナルの下絵を用意して，参加者に自由に色を塗ってもらった．下絵の内容は恐竜やアンモナイトなど地学に興味を持ってもらえるようなものを選んだ．

14：00の講演会開始まで，会場の大型スクリーンには，NHKの番組（2009年11月３日に全国放送された，糸魚川市の小滝川ヒスイ峡からの生中継，時間は約20分）を上映し，講演の開始を待つ入場者にご覧いただいた．講演会開始20分前と10分前に行事案内の館内放送が流され，席につく人が増え始めた．講演会場には新潟大学の副学長2名の姿もあった．

14：00，講演会開始のあいさつと講師紹介の後，講演会が始まった（写真３）．講師は茨木が務め，演題は「ジオパークを学び・遊び・楽しもう」であった．内容は，今回の行事の趣旨，持参したブラジル産のイタコルマイト（通称こんにゃく石）と，香川県産のサヌカイトを使って冗談を交えた話，続いて本題の「ジオパークとは何か」，「糸魚川ジオパークの見どころ」，「世界ジオパーク認定」と続いた．糸魚川にはヒスイや糸静線の断層露頭をはじめとする地質・地形・動植物，およびそれらと人間の営みとの関わりがわかる見どころが数多くあり，それらがどのように整備され，どのように見てまわることができるかが話の中心となった．約50用意した席はほぼ埋まった．

講演会の後，講演会会場の机と椅子を移動させ，15：20からクイズ大会を開始した．クイズ大会についても15：10に行事案

左から写真１，化石レプリカづくり．お湯でやわらかくなる樹脂（商品名：おゆまる）を使用した．多くの参加者が押しかけた．写真２，液状化現象実験装置（エッキー）づくり．地震で起こる液状化のしくみがわかる．写真３，講演会の参加者．席はほぼ満席となった．

左から写真４，クイズ大会の参加者．実物に触れて答えを考える．写真５，今回の行事のスタッフ集合写真．

内の館内放送が流れ，40人ほどの参加者が集まった（写真４）．クイズは３つの選択肢から正解を選ぶ，いわゆる３択問題とし，クイズの内容は，参加者に「実物」に触れてもらう機会となるよう，糸魚川産の鉱物標本を10数種類用意し，それらに関する問題を出題した．また，より多くの人が正解できるように出題を工夫するとともに，問題のレベルを考慮した．例えば第１問は「この３つの石のうち，ヒスイはどれでしょう」であったが，用意した石は３つともヒスイであり，全員正解であった．ほかに，コランダムは同じ大きさのヒスイと比べて重いか軽いか，ヒスイの名の由来は色が綺麗で魚捕りが上手な鳥であるが，その鳥はカワセミかペリカンかニワトリか，といった問題を出題した．クイズは１ゲームに５問出題し，５問全て正解した参加者には賞品として糸魚川産のサンゴ化石が手渡された．また，途中で不正解となった参加者には新潟大学オリジナルの消しゴムが配られた．賞品のサンゴ化石（青海石灰岩から産出した石炭紀前期の四射サンゴ）は，灰白色の石灰岩中に直径３～５mmほどの白く丸いサンゴの断面が見えるもので，小学生の参加者には説明しないとどこが化石かわからなかったが，説明するとどの参加者も喜んでくれた．クイズ大会は16：15ごろ終了した．

行事は16：30に終了し，スタッフ全員で記念写真を撮影し（写真５），後片付けをして会場を後にした．

行事を終えて

今回の行事は，会場への入場者284名で，そのうち化石のレプリカづくりの参加者は152名，講演会の聴衆は約50名，クイズ大会の参加者は延べ約70名であった．284人の方々に糸魚川ジオパークについて少しでも知ってもらうことができ，当初の目的は達成できたものと思われる．会場で糸魚川の特産品の展示を興味深そうに見ていた方もおり，糸魚川に行ってみたいと思われた方も多いかもしれない．スタッフとして参加した学生・院生の方々には，多くの参加者を相手に教育普及活動の経験を積んでいただけたと思う．

今回の行事についての事前の告知は，新潟大学のホームページ，国立科学博物館のメーリングリストのほか，「東京糸魚川会」（主に首都圏在住の，糸魚川市出身者の集まり）の会員あての行事案内はがきがあり，その結果東京糸魚川会の会員数人が講演を聞いてくださった．出身地である糸魚川市の取り組みに興味を持っての来場と思われる．入場者のほとんどは，事前に行事のことを知らずに，科博に来て初めて行事を知った方であり，今回の行事に多くの参加者を呼ぶことができたのは，館内放送による周知と，サイエンスフェスタのメイン会場での告知によるところが大きいと思われる．

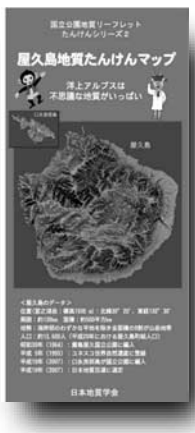
化石のスケッチのモデルに使った標本は糸魚川産のものであり，この点は糸魚川についてアピールするポイントとなった．人気が高かった化石のレプリカづくりにも糸魚川産の化石を使い，そのことをレプリカづくりの説明の際に参加者に強調して伝えれば，糸魚川についてより強くアピールできたのではないかと思われる．

今回の行事は，ジオパークを推進する地域と地方大学との連携の実例といえる．この実施報告が多少なりともジオパークの関係者の参考になれば幸いである．最後になったが，事前の準備から当日の物品の手配まで多岐にわたりご協力くださった国立科学博物館事業推進部の皆様，新潟大学広報室の皆様に感謝の意を表し，報告を終わる．

国立公園リーフレット　たんけんシリーズ第2弾

屋久島地質たんけんマップ

ー洋上アルプスは不思議な地質がいっぱいー



かわいいキッキくんとシカノスケ博士が
屋久島の地質をわかりやすく紹介してくれます。

会員頒価 300円
※20部以上ご注文の場合は割引あり

編　著：日本地質学会地学教育委員会
　　屋久島地学同好会
発　行：日本地質学会
B2版　12折　両面フルカラー印刷

シリーズ1
「箱根火山たんけんマップ」も
好評発売中！

購入希望の方は、学会事務局まで．
e-mail:main@geosociety.jp　電話:03-5823-1150

☆関東支部

案内

地質技術伝承講演会：地質技師長が語る地質工学余話（4月・6月）のお知らせ（第1報）/2010年度関東支部総会（4月18日）のお知らせ

共催　（社）全国地質調査業協会連合会　関東地質調査業協会
後援　（一般社団）日本応用地質学会（予定）

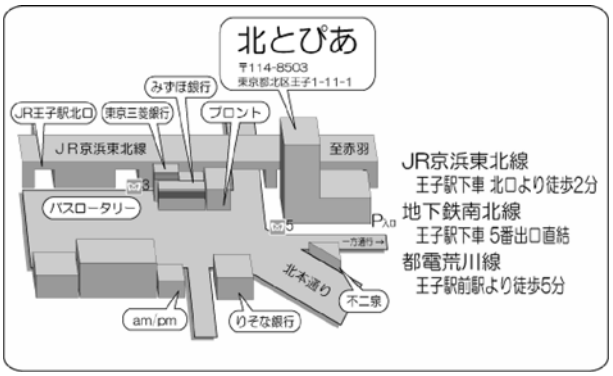
2008年度より共催を頂いた国立科学博物館を会場として実施してまいりました標記講演会はお陰様で，皆さま方の熱心な聴講に支えられ全6回を盛会に終了することができました．ここに厚く御礼申し上げます．

さてご好評により新しく2010年度より「地質伝承講演会」を再び企画いたしました．今年度からは前回協賛を頂いた関東地質調査業協会と共に開催し，地質技術について更に詳しく技師長またはベテラン技術者の方々に講演いただくことになりました．これまでは日本を造り支えてきた大プロジェクトがテーマの中心でしたが，これらのテーマに加え，これからの講演会では，土石流，地下水資源の利用と保全，自然由来の重金属汚染，地質毎のボーリング・孔内試験技術など，現在直面している様々な地質工学的課題についても講師を招聘し，お届けしたいと考えております．皆さま方のご参加をお待ちしております．合わせて4月18日には関東支部総会も実施いたします．引き続き会員の方々のご出席を頂きますようお願い申し上げます．

第1回
日時：2010年4月18日（日）13：30〜16：00
場所：北とぴあ（東京都北区王子1-11-1）7階　第1研修室
講師：千葉　達朗氏（アジア航測株式会社）
テーマ：赤色立体地図による新しい地質調査技術
続いて，関東支部総会（16：00〜16：30）を実施します．

第2回
日時：2010年6月6日（日）14：00〜16：30
場所：北とぴあ（東京都北区王子1-11-1）飛鳥ホール
講師：中村　裕昭氏（株式会社地域環境研究所）
テーマ：共生型地下水利用に向けての「育水」の提唱
参加費　無料（第1回，第2回共）

申し込み方法：公開中のジオスクーリングネットによる登録または学会へのFAX，下記担当幹事へのe-mailにて受付けます．
ジオスクーリングネット；https://www.geo-schooling.jp/
学会事務局気付関東支部宛　FAX　03-5823-1156
担当幹事　緒方信一　ogata@ckcnet.co.jp



☆北海道支部

案内

2010年支部総会・個人講演会のお知らせ

北海道支部では下記の日程で支部総会，個人講演会を開催する予定です．例年より早い時期となりますが，多数の皆様のご出席をよろしくお願いいたします．

日時：2010年3月20日（土）13：30〜17：30
場所：北海道大学理学部6号館　6-204-02教室

＜総　会＞　13：30〜14：50

＜個人講演会＞　15：00〜17：30
1．北海道の縄文〜続縄文時代の遺跡で出土する緑色の玉類－岩石鉱物学的性質からみた原産地の検討－
　菅原いよ・岡村　聡・加藤孝幸・立田　理
2．安平町に分布する最終氷期ローム層の帯磁率による分帯
　金川和人・迎大　貴・児玉　真・北海道厚真高校自然科学部
3．北海道当別町のGS-HTB掘削コア（上部更新統〜完新統）の珪藻分析
　嵯峨山　積・大津　直・川上源太郎・仁科健二・廣瀬　亘・小松原純子・木村克己
4．北海道石狩低地帯の中〜上部更新統の分布特性の検討
　近藤　務・外崎徳二・嵯峨山　積・岡村　聰・藤原与志樹・井島行夫
5．八雲活断層沿いの花崗岩類分布と和温泉の坑井地質
　加藤孝幸・岡田信一・ 佐々木克久
6．白滝黒曜石を形成したマグマ活動
　和田恵治・佐野恭平・菊地智子
7．蝦夷層群における炭素同位体・浮遊性有孔虫の統合層序
　高嶋礼詩
8．閉鎖温度と冷却速度
　前田仁一郎

問い合せ先
　日本地質学会　北海道支部 事務局
　〒060-0819　札幌市北区北19条西12丁目
　北海道立地質研究所内　川上源太郎　気付
　TEL/FAX　011-747-2447/011-737-9071
　E-mail : kawakami@gsh.pref.hokkaido.jp

研究室紹介
山口大学理学部　地球圏システム科学科

宮田雄一郎研究室一同

本研究室の概要

山口大学理学部地球圏システム科学科には，鉱物・鉱床学，岩石学，地史学，応用地球科学の４つの教育研究分野があります．本研究室は，地史学分野のひとつです．

2009年度現在，本研究室には博士前期課程５名，卒論生５名の合計10名が所属しています．未固結堆積物の変形構造と砕屑物の堆積過程の研究を中心とする宮田雄一郎教授のもと，日々研究に励んでいます．現在は重力流堆積物の堆積過程に重点を置いた研究テーマが多く，フィールドワークだけでなく室内実験も多く行っています．フィールドワークの主な調査対象は，山口県や九州地方にみられるAso-4火砕流堆積物，千葉県・上総層群の混濁流堆積物といった重力流堆積物です．また，和歌山県田辺層群で見出された炭酸塩は，流体噴出イベントを示唆する興味深い発見です．地層の観察や形成実験からそれらのふるまいを読み取ることは，研究者にとって非常に魅力的な作業です．

本研究室は学会で活躍する学生も多く，最近では2008年の日本堆積学会弘前大会と日本地質学会秋田大会，2009年の日本堆積学会京都・枚方大会と日本地質学会岡山大会でそれぞれポスター賞を受賞することができました．研究室のゼミを通して議論を深め，学会という場で研究を評価してもらえることは非常に光栄です．これらの実績は他の学生にも大きな刺激となり，今後もよりよい研究成果を求めそれぞれが前進していくことでしょう．

宮田雄一郎教授

堆積過程と未固結堆積物の変形に関する研究を行っています．最近とくに力を注いでいるのは，堆積物重力流の解明です．

フィールドワークは，比較的若い時代の地層が調査対象です．そのため，ハンマーよりも，露頭成形のための「ねじり鎌」が必需品です．地層を詳しく観察し，地球史の様々なイベントを解明することはとても魅力的です．また，重力流の挙動を解明するために水槽実験も多く行っています．試行錯誤を重ねた実験装置で天然の現象を再現できたときは，非常に嬉しく思います．

堆積学は，現代社会のキーワードともいえる資源や環境と密接に関わっています．私たちの研究が社会の役に立つよう，理学としての探求心と併せて地球科学の「意義」をもちながら，学生たちと共に研究を推し進めていきたいと思っています．

研究室のメンバーと研究内容

河内美貴子（M2）　石炭は人類にとって有用な資源ですが，その成因はわかっていません．そこで私は，石炭層が挟在する宇部層群（山口県・古第三系）を調査対象とし，石炭層の成因の解明を目指しています．市街地であるため露頭が少なく先行研究も少ないのですが，地元企業の厚意によりボーリングコア（約150m）と多数のボーリング柱状図を提供していただきました．現在はそれらのデータもまとまり，宇部層群の層序と堆積環境がわかってきました．とくに，主要な石炭層を挟在する地層はほとんどが海成であるとわかりました．「石炭層は海で堆積した」という事実が，成因を解明する大きなヒントになりそうです．

河野光宏（M2）　私の研究は“塊状”タービダイト砂岩層の堆積過程の解明が目的です．調査対象は上総層群梅ヶ瀬層（千葉県・下部更新統）です．“塊状”の重力流堆積物は，特徴的な堆積構造が欠けているため，その成因に関する議論が未だ絶えません．そんな厄介者を退治するひとつの手段が「粒子配列」です．“塊状”のなかに潜むベッドフォームを抽出するため，50万を超える砂粒子を測定してきました．気の遠くなる作業でしたが，この努力はもうすぐ実を結びそうです．

光原奈美（M2）　海底には，陸上の蛇行河川とよく似た蛇行しているチャネル（流路）が存在します．この蛇行チャネルは，チャネル・レビーシステム（流路・自然堤防複合体）に伴い形成されたものです．どのような流れが海底にこれらの地形を作ったのかを解明するため，チャネルの形成から放棄までのプロセス解明を目標に水槽実験を行っています．チャネルを形成する実験は，砂や粘土などの堆積物を用意し，そこに水を流し浸食作用でチャネルを発生させる方法がよく利用されます．しかし私の研究では，水槽に泥水を流し，泥の「堆積」でチャネルを再現する方法で実験を行っています．ちなみに，実験に使用する水槽はアクリル板を切って自分で作ります．「なければ作れ！」が宮田研究室の特徴のひとつです．

酒井北斗（M1）　紀伊半島南西部の中新統田辺層群には，泥ダイアピルや泥火山の噴出による堆積物が分布しています．泥ダイアピルの上昇や泥火山の噴出には，メタンガスが関与した可能性が考えられていますが，証拠は見つかっていません．卒論では炭酸塩チムニーに着目し，メタン湧出の高い可能性を見いだしましたが，ダイアピルとの直接的な関係性を見いだすことはできませんでした．そこで修士論文では，その証拠を見つけ，流体噴出イベントに対するメタンガスの関与について検討することを目標としています．

杉山直也（M1）　私は，千葉県房総半島に分布する海底扇状地堆積物（上総層群大田代層と梅ヶ瀬層）を調査しています．今は特に，砂岩層の帯磁率に着目しています．泥岩層の帯磁率を用いた堆積物の時系列変化の検討は多く行われていますが，それを砂岩層でも行っています．砂岩層は単層内で帯磁率が数倍の変化を示すことがあります．そのため，単層内における最大値で検討しています．最終的には，海底扇状地を埋積した砕屑物の供給源と供給経路の解明を目指しています．

院生コーナー

室住太郎（B4） 私の研究テーマは「水中土石流堆積物の分級組織と運搬－堆積機構」です．調査対象である上総層群梅ヶ瀬層（千葉県・下部更新統）には，水中土石流堆積物と思われる地層がみられます．しかし，一般的な土石流堆積物の特徴を示さないため，その運搬－堆積機構を解明するために現在は水槽実験をしています．水中土石流は普段の私たちの生活とは関わりがないため，わからないことが多すぎて最初は研究が不安でした．しかし，現地調査と室内実験を組み合わせて考えることで少しずつ理解が深まり，今では研究のおもしろさを感じています．

石倉賢志（B4） 「混合粒径砂の粒径淘汰に関する水路実験」

火砕流や混濁流などの堆積過程は直接観察することができず，地層の堆積構造から推測するしかありません．重力流堆積物の堆積構造には，浸食面に細粒な残留物質がしばしばみられることがあります．そこで，堆積速度の小さい浸食的な流れのなかで混合粒径砂はどのような選別を受けて堆積するのかを明らかにするため，水路実験を行っています．私自身，実験ではなくフィールド調査の方が向いていると思っていましたが，今回の卒論で実験の魅力とやりがいを改めて実感しています．

佐々木政和（B4） 私は，千葉県房総半島に分布する海底扇状地堆積物（上総層群梅ヶ瀬層）にみられる未固結変形構造について研究しています．変形前の層序を復元し，変形のメカニズムを明らかにすることが目的です．特定層準で観察された砂層の変形構造は，これまでは地震による液状化の痕跡と考えられてきました．しかし，同一層準には泥層の変形もみられます．これらの変形は，液状化では説明できません．そこで，調査地域付近に産出するハイドレート起源のメタンに着目して検討することにしました．いま話題のハイドレートに関係する研究であるため期待も不安も大きいですが，新しい発見に繋がると信じて頑張って研究していきたいと思います．

渡部一貴（B4） 私は，約９万年前に発生したAso-4火砕流堆積物の「堆積変形構造」について研究しています．主な調査対象は山口県宇部市で，阿蘇山の火砕流が山口県まで達していることには驚きです．調査地域が県内であるため，フィールドワークが行いやすいことがメリットです．火砕流の堆積過程はまだあまり解明されていないため，特異な産状に着目して検討することに，やりがいと不安の両方が混在しています．

大出　悟（B4） 私の研究は「足跡化石の形成実験」です．恐竜などの大型生物が幼い頃から大好きで，それらが現代に残した化石に興味があり，この研究テーマを選びました．堆積学や生物の知識だけでなく，応力や歪などの物理的な考えも含んだ研究であるため，学ぶことが多くあります．思うような結果はまだ得られていませんが，実験するたびに新しい発見があり，とても楽しく思っています．

常時投稿をお待ちしています．院生コーナーの編集は現在以下の３名でおこなっています．原稿はe-mailでいただければ幸いです．

b.honda@ruri.waseda.jp　本田豊也（早稲田大）
k1799462@kadai.jp　中谷大輔（鹿児島大）
miyakawa@earth.kumst.kyoto-u.ac.jp　宮川歩夢（京都大）

災害に関連した会費の特別措置のお知らせ

本年度において災害により被害を受けられた皆様に，心よりお見舞い申し上げます．

日本地質学会では，災害救助法適用地域で被災された会員の方々のご窮状をふまえ，理事会で検討の結果，以下の措置を取らせていただくことにいたしました．

「日本地質学会に届出の住居または勤務地が災害救助法適用地域に該当する会員のうち，希望する方」は2010年度（平成22年度）会費を免除することといたします．

この措置の適用を希望される会員は，学会事務局までお申し出下さい．お申し出の方法は，郵送，FAX，e-mailのいずれでも結構です．締切は，2010年２月26日（金）までとさせていただきます．

※通常の会費払い込みについては，上記「2010年会費払い込みについて」をご参照下さい．

2010年１月９日
日本地質学会　会計委員会

2010年度（2010.4～2011.3）学部学生割引・院生割引申請受付中！

一般社団法人日本地質学会運営規則により，来年度（2010年度）からは学部学生・院生（研究者）については，本人の申請によりそれぞれ割引会費が適用されます．該当される会員は所定の書式にて申請書を提出してください（ニュース誌12月号別掲，郵送に限る）．

＜注意＞

１．2010年４月から社会人になるかたは割引会費の申請はできません．

２．毎年更新となりますので，次年度会費について該当する方は，必ず申請してください．

最終締切：2010年３月31日（水）

学　会　記　事

任意団体日本地質学会の議事録を掲載しています．

（任）日本地質学会2009年度第６回理事会議事録

2009年12月５日
日本地質学会
会長　宮下純夫

期　日：2009年11月14日（土）
13：00～16：30
場　所：地質学会事務所
出席者：宮下会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍（16時で退出）上砂　小嶋　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）
欠席者：高木副会長，石渡　岩森　倉本　小嶋　各理事

＊成立員数（12/17）に対し，出席者12名，委任状５名，欠席者０名で，理事会は成立．
＊前回議事録の承認

○報　告

１．運営財政部会（部会長-上砂，向山，倉本，坂口）
総務委員会（委員長-上砂）
報告事項
・日本アイソトープ協会より第47回アイソトープ・放射線研究発表会の共催依頼ならびに運営委院の推薦依頼：共催は例年通り承諾．委員は小笠原正継会員に依頼した．
・第51回藤原賞受賞候補者の推薦依頼：締切1/31→geo-flash，news掲載
・東大海洋研究所から，共同研究利用公募→geo-flash掲載
・富山県ひとづくり財団の平成22年度「とやま賞」の募集は，富山関係者に確認したが適任なし，その他も現在まで応募なし．
・日本考古学協会から，地方分権改革推進委第三次勧告における博物館法第12条について，反対意思表示の声明公表を行うことについて，検討の要請があった．
・学術会議「大学教育の分野別質保証にむけて―日本学術会議からの報告」公開シンポジウムの案内および学協会の取組みに関するアンケート（→藤本副常務から回答）
・学術著作権協会より日本複写権センターの調査に基づく再委託著作物使用料2007年度分について，分配複写使用料47,634円（包括分46,848円，FAX分413円，文献提供業者等期間限定契約分373円）が配分されることが決まった．
・財）交流協会（日台の科学技術交流）の事業案内：若手研究者交流・セミナーシンポジウム助成・共同研究助成→geo-flash，news掲載

会員関係（担当理事　向山）
１）入会者０名
２）退会者１名（正１）高橋かづ江
３）逝去者１名（正１）堀越　叡（10月16日逝去）
４）10月末日会員数
賛助30，名誉74，正4228（うち院　217），準32，合計4364（前年同期比－104）
５）法人との兼用会員名簿への規則類の掲載について
任意団体の規則：会則・運営細則のみ掲載
法人の規則：倫理綱領（任意と同様）・定款・総会規則・運営規則・理事会規則・選挙規則選挙細則・選挙管理委員会規則・個人情報保護に関する規則・除名規則・利益相反防止規則・各賞選考規則・各賞選考委員会規則・編集規則および３細則
法人規則類については，Webでも掲載すること．

地球惑星科学連合（久田連絡委員）
・第１回学協会会長会議（11/11）に宮下会長が出席
博物館法改正反対→学協会長会議として提出
科学技術政策に関する要望書→案文を練る
科学オリンピック→2012日本大会への積極的支援
連合の雑誌→２つのe-journal（JpGU e-letter, JpGU e-review）を検討中
教員養成問題→新しい委員会で検討開始（北里氏が委員）
会計関係（担当理事-向山）
・10月16日に会計委員会を開催審議内容は以下のとおり．
１）名簿印刷業者は見積もりによって創文印刷工業に決定
２）法人化に伴う預貯金移行の扱いについて確認
３）岡山大会の収支の確認，収入約831万　支出約874万　－43万
業務委託費：イベント会社費用約106万円,旅行・参加登録業務の委託費用約70万円
４）今後の年会事業について，懇親会・見学旅行費用についいても年会会計のなかで実施．
５）年会業務の委託については今後も必要と考える．業者の選択については，今回の業者にもう一度委託して次々回以降の判断材料にすべき．業者に意向確認済み．
６）旅行及び参加登録についての業者委託は経済的な観点から検討の余地あり．学会の自前システム構築の可能性を検討するため，業者に見積もり依頼．システム設計等一式63万円，ランニングコストは現在のHP等の保守管理を合わせて年間44万円（15万アップ）．検討の結果，業者に発注することとした．
７）事業区分および科目分けについては検討中，12月の理事会に提出予定．
・11月９日　会計委員会開催
１）会計処理規則の法人版の整備
２）会計科目の検討
・事務局体制の強化
今年度は派遣職員で対応．

広報委員会（担当理事-倉本＝情報特任・坂口）
・フォトコンテストのポスターを作成し，関係機関約360ヶ所に配布．
現在までの応募数150件と大幅に増えた．
・ニコン広報誌 Nikon Today vol.72（ジオの世界へ，会長ほか協力）が発行された．英語版もHP上にアップされた．

２．学術研究部会（部会長-石渡）
行事委員会（担当理事・委員長-斎藤）
・岡山大会について
年会の収支および今後の年会事業費等については，会計委員会報告3）～6）のとおり．
見学旅行に関する費用の扱いについては会計委員会の検討により，準備および実施のすべてを年会事業の収支として扱うこととし「見学旅行実施手続き」をまとめた．
・富山大会について
１）地質情報展とやま2010「北陸の大地をゆるがす地震と恐竜（仮題）」と題し，実行委員会が企画した講演会と恒例の地質情報展を合わせて，学会として科研費研究成果公開発表Bを申請．
・2011年度の大会について
１）関東支部においては，茨城大を第一候補で検討中
２）日本鉱物科学会の会長から，2011年の大会の共同開催の申し入れがあり，今後，両学会長で共同開催の基本線について話し合ったのちに，具体的な案を詰めていく．地質学会としては，共催となった場合には，できる限り受付や予稿集などの一本化などが望ましいこと，アウトリーチや市民向け講演会などの共催も可能であること，地質学会での年会業務の業者委託についても伝え，検討することなどを会長に要望した．
３）2011年大会のキャッチフレーズの検討を関東支部から依頼された．
地下資源や景観なども含めたジオリソースはどうか．
他のSRG，石油技術協会，地学教育学会，第四紀学会，古生物学会等へ共催を呼び

かける
・見学旅行の実施に関する手続き（案）
文章について多少の修正を要するが，趣旨および方針については承認された．
・見学旅行案内書刊行について（案）
地質学雑誌編集委員会に担当者を置き，案内書編集委員会と密接に連携をとる．
冊子体の要望を出す際には企画書を提出する．
冊子体には雑誌の補遺としての引用法などを明示する．
できれば，８月号にCD-ROMを添付できるようなスケジュールで編集作業が進行するよう，当該編集委員会に要望し，大会前に大会HPからダウンロードできるようになるのが望ましい．

国際交流委員会（担当理事-石渡＝国際特任理事）
・モンゴルとの交流協定締結の訪問（会長，石渡理事）報告
資源関係を中心に多数の協力プロジェクト
富山大会に招待
ジオパークには強い関心をもっている．
・韓国地質学会年会（10/29-30，済州島）への正式招待（会長，高木副会長）報告
IODPなどを中心に幅広く交流
韓国地質学会長を招待する必要
今年度予算で韓国第四紀学会長Wooさんを招待

３．編集出版部会（部会長-久田，小嶋，岩森，井龍）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
・雑誌発行状況
115-10月号：論説３　短報３　ノート１（56ページ・発行済み）
115-11月号：論説３　短報１　ノート１（60ページ・校正中）
115-12月号：特集号「陥没カルデラ（I）：構造とマグマ」論説５　口絵１（予定）
・今月の編集状況（11月12日現在）
2009年度投稿論文　総数67編［論説36（和文36），総説10（和文10）短報17（和文16　英文１），ノート３（和文３）報告１（和文１）］口絵８（英文４・和文４）
投稿数昨年比　－44　査読中編　61
受理済み24編（うち通常号15　特集号９）
・編集委員の交代
任期終了につき下記の通り委員の交替があった．一部後任委員については依頼中．
退任：長谷部徳子・中江　訓・小山内康人・入野智久・渡辺真人・川村寿郎・新井田清信（残務終了次第退任）・角井朝昭（残務終了次第退任）・八木浩司（残務終了次第退任）
新規（11月１日付）：池田　剛（九州大学）・大平寛人（島根大学）・鎌田祥仁（山口大学）・鈴木毅彦（首都大学東京）・野田　篤（産総研・地域地質部会選出企画部会）

Island arc編集委員会（担当理事-井龍，事務局長-竹内圭史・角替敏昭）
・編集状況報告（10/30現在）
査読が少し遅れ気味だが，webを活用して早期公開に努力

企画出版委員会（担当理事-藤林）
財団法人JTBで矢島理事がジオツアーについて講演→探検マップが好評だった

４．普及教育事業部会（部会長-矢島，藤林）
地学教育委員会（委員長-中井均）
地球惑星科学連合「教育問題検討委員会」（矢島）
生涯教育委員会（委員長-柴）
地質基準委員会（委員長-新妻）
地層名委員会（委員長-天野）
・来年の地球惑星科学連合大会のユニオンセッションとして下記のシンポジウムを提案．
「変わる年代のものさし－日本における第四紀・第三紀を考える－」
コンビーナ：天野一男，遠藤邦彦，井龍康文
・１月に学術会議でもシンポジウムを行う予定
・第四紀問題に関しNews誌，Web，geo-flash等に第四紀問題に関する概説を掲載した．

５．各委員会等
JABEE委員会（委員長-天野）
・JABEE創立10周年記念パーティ「報告と感謝の集い」（11/25）への招待，佃副会長出席
ジオパーク支援委員会（委員長-天野）
・富山大会での行事を検討中
・来年の地球惑星科学連合大会に他学会との連携でセッションを提案した．
法務委員会（担当理事・委員長-上砂）
・前回理事会で提案した規則の修正
・意見書について検討
名誉会員推薦委員会（委員長・担当理事佃副会長）
・委員会委員の選出，12月の理事会までに選出
役職委員　７支部長
階層別委員と理事会委員の選出
大学，小中高，官公庁，会社，理事　各１名

６．地質の日委員会（藤林委員）
10月20日に委員会を開催．
委員長が中尾さんから平田大二さんに交代，副会長が藤林理事と栗本さん
今年の地質の日の参加者数は昨年の８万人から20万人以上へと大幅増

７．IYPE日本（佃副会長）
・ファイナルイベント　３月27日―28日
会場：富士ソフトアキバプラザ６階
「惑星地球フォルム2010 in アキバ―君たちと考える環境・防災・資源」
記念式典　28日11：00－16：00
第１部　セレモニー
第２部　記念講演およびパネル討論，アキバ宣言
展示　３月27日―28日　青少年対象
学会としてのイベント　地学オリンピック関係？

８．日本ジオパーク委員会（高木委員）
・10月28日の委員会において，世界ジオパークネットワークへの加盟申請は，山陰海岸ジオパークが１か所認定され，日本ジオパークとして下記の４か所が認定された．
恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク・隠岐ジオパーク・阿蘇ジオパーク・天草御所浦ジオパーク

９．NPO地学オリンピック日本委員会（久田）
・地学オリンピックの動き
国際地学オリンピック日本はつくば開催予定　複数の機関で協力
参加国や人数は国際生物学オリンピックの半分の規模
期間は８月26－９月２日を予定
・早急に国際地学オリンピック日本大会組織委員会を立ち上げ予定
組織委員会のもとに，実行委員会，募金委員会，科学委員会などを設置
地質学会としての関わり方も検討する必要があり．
・国際地学オリンピックフェスティバルの開催を計画中
・地学オリンピックの各種委員会に地質学会からも人を派遣すべき

10．日本学術会議（佃副会長）
・IYPE終了に合わせて学術会議としてメッセージを出す．
・第四紀問題でシンポジウムを開催．

◯審議事項
１．地方分権改革推進委員会第３次勧告の博物館法改正にたいする考古学協会からの要請
地惑連合で出したので，現時点で地質学会としての独自の表明はしない．
２．地球惑星連合の定款変更における同意書の提出について了承することとして提出する．
３．その他
１）12月の評議員会議題について
中心議題は解散の方法について

2）意見書について
法務委員会で対応することとした．

（任）日本地質学会2009年度 第７回理事会議事録 （一社）日本地質学会2009年度 第７回執行理事会議事録

期　日：2009年12月５日（土）
10：00～12：00
場　所：北とぴあ　902会議室
出席者：宮下会長，高木副会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　井龍　上砂　倉本　齋藤　坂口　久田　向山各理事，小山内副議長，高橋理事，橋辺（事務局）
欠席者：石渡　岩森　小嶋　藤林　矢島
＊成立員数（9/17）に対し，出席者12名で，本会議は成立．
＊前回議事録の追承認

◯報告事項
・「北淡国際活断層シンポジウム2010」（実行委員長中田高）2010年１月17-21日（淡路市）の後援依頼を承諾．
・紹介派遣により３月までの契約で事務局職員１名を雇用することとした．

◯審議事項
１．名誉会員推薦委員会役職委員の選出
・階層別代表（５名）：大学：岡村　眞（高知大），小中高：紺谷吉弘（立命館高），官公庁：植村和彦（科博），会社：足立勝治（アジア航測），理事会代表：石渡明
・名誉会員推薦委員会規則（任意団体の修正版）を承認した．
２．開票立会人として次の方を選出
佐野貴司（科博）・竹内圭史（産総研）
３．地層名委員会から，１月学術会議との共催の第四紀問題シンポジウムの地質学会からの講演者に対する交通費支給依頼については，必要な方には支給する．
・シンポジウムについてはプレスリリースを行い，その前にプレスに対しレクチャーを行うことを主催者等に提案することとした．
・シンポジウムのポスター（広報紙）を作成し，メールで各方面に配布することとした．
４．地層処分リーフレット「日本列島と地質環境の長期安定」（折りたたみB５判）の原稿が地質環境長期安定性研究委員会，吉田委員長から提出された．原稿の取り扱い，印刷までの手続きをどのようにするか．任意団体として企画承認しているのでその扱いでよいか，新しい手続きに沿って行うか検討した．本企画は任意団体のときに承認した企画であるので，これまでのルールにより取り扱うものとする．同委員会の委員である高橋理事から原稿の内容についての説明を受けた．その結果，原稿は再検討のうえ，再提出してもらうこととした．
５．評議員会・理事会審議内容の検討，確認
以上

この議事録の正確を期するため，次の通り署名する．

2010年１月９日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）　宮下純夫
署名人　理事

（任）日本地質学会2009年度 第２回定例評議員会議事録

2009年12月28日
日本地質学会評議員会
副議長　小山内康人

日時：2009年12月５日（土）13：00―14：30
会場：北とぴあ　902会議室（東京都北区王子）

出席者：（３名）会長　宮下純夫　副会長　高木秀雄　佃　栄吉
（評議員15名）永広昌之　大友幸子　沢田順弘　新妻信明　脇田浩二　岡　孝雄　小山内康人　紺谷吉弘　佐々木和彦　高橋正樹　滝田良基　松原典孝　丸山茂徳　吉川敏之　渡辺真人
（理事12名）渡部芳夫　井龍康文　岩森　光　上砂正一　倉本真一　小嶋　智　坂口有人　斎藤　眞　久田健一郎　向山　栄　藤本光一郎　藤林紀枝
（事務局）橋辺菊恵
欠席者　評議員（委任状23名）：阿部国広　荒戸裕之　磯崎行雄　卜部厚志　川端清司　北里　洋　柴　正博　中川光弘　保柳康一　堀　利栄　三宅康幸　山路　敦　山根　誠　磯野　清　足立勝治　安藤寿男　伊藤谷生　狩野謙一　木村　学　公文富士夫　芝川明義　松岡　篤　村山雅史
欠席者　評議員（委任状なし１名）：松本俊幸
理事（５名）　石渡　明　矢島道子
オブザーバ（＝報告者）　関東支部幹事　山本高司
＊出席者成立員数（20/39）に対し，出席30名，委任状26名で，評議員会は成立．
＊書記の選出

◯報告事項
１．理事会報告
（１）運営財政部会
１）総務委員会（部会長-上砂）
＊理事会議事録参照
２）会員委員会（担当理事-向山）
・前回からの入会者数　11名
正会員10名（うち院割６），準会員１名
・前回からの退会者　正会員　１名
・逝去６名　名誉会員　２名　正会員　４名
名誉会員　羽鳥謙三（9/2）市川浩一郎（11/25）
会員　山嵜謙一（9/3）青木　清（9/30）飯嶋治男（10/12）堀越　叡（10/16）
・会員数

	賛助会員	名誉会員	正会員(内 院生割引)	学生会員	合計
2009.11.30	30	73	4226(217)	32	4361
2009. 8.31	30	75	4221(211)	31	4357
前回比	0	－2	＋5	＋1	＋4

・会員名簿の発行（任意団体と法人の兼用発行）12月中に配布予定
・長期滞納による2009年度末の除籍予定者（131名）
・会員数は毎年100名程度確実に減っており，下げ止まり傾向にはない．

３）会計委員会（佐々木和彦委員長・担当理事-向山）
・10月までの収支報告
年会開催費はほぼ決定．３月までは派遣で人員を調達．
・10/16，11/9　会計委員会を開催
法人移行に際しての支部の財産，来年度からの支部会計処理，引当金の整理，法人の会計科目，年会の委託業務・参加登録システムの導入等について検討した．また，会計処理規則法人版の整備をした．
・参加登録システムについては発注済み，年会の委託業務は複数業者の見積もりを検討中．

４）その他
・地球惑星科学連合（委員-久田）
11月11日第1回学協会会長会議が開催され会長が出席した．
・連合及び学協会名で地方分権改革推進委員会第３次勧告，博物館法改正への意見表明をした．
・行政刷新会議の事業仕分け（次世代スパコン，spring8，深海ドリリング，地球内部ダイナミクス）に対し，連合及び学協会名で意見書を提出した．

５）広報委員会（情報特任担当理事-倉本，委員長-坂口理事）
・フォトコンテスト2009のポスターを作成し，関係方面に配布した．
・IYPE日本と共催の第１回惑星地球フォトコンテスト2009は11/30で締切られ，応募総数は437点であった．
・フォトコンテスト2009の審査委員長を白尾元理会員に依頼した．12月中に一次審

査を行い，1月に二次審査を行って受賞を確定する予定．
・地質学会のHPはリニューアル後2年と2ヶ月半，11月20日に訪問者数100万人（563万ページビュー）を達成．

（2）学術研究部会
1）行事委員会（委員長-斎藤理事）
・岡山大会について
参加者数は，約850名，市民講演会の来場者は約140名，地質情報展の入場者は2000名と各々盛況であった．岡山理科大学（加計学園）には会場の提供および補助金その他で多大なご援助をいただいた．今回初めて大会運営を業者委託した．今後その効果について検証していく．
・2011年富山大会は準備を開始した．大学へは共催申請を出しているが，共催ではなく後援が妥当となる可能性もある．
・2011年の年会は関東支部の回り持ちで，会場は茨城大学に決定したことが関東支部（幹事山本氏）から報告された．
催日：第一候補日9/2（金）−9/4（日），第二候補日9/9（金）−9/11（日）
開催候補日について，小中高教員が出席するには適当ではないと，再検討が要請された．
・見学旅行実施手続きおよび見学旅行案内書の刊行・作成について検討しまとめた．
見学旅行実施に関する手続きは，文脈が読み取りにくいので，再構成が要請された．
見学旅行案内書については，別刷の印刷希望が多く寄せられ，地質学雑誌に準じ，著者に50部の別刷を配布することとした．

2）国際交流委員会（特任担当理事-石渡）
・モンゴル地質学会と学術交流協定を締結10月に宮下会長と石渡理事が出席して調印，モンゴル地質学会に記念の楯を贈呈した．地質学会には馬頭琴が贈られた．会長自ら赴くことの意義は大きいものであった．
・日韓地質学会交流協定の一貫として，10月29日―30日，済州島での韓国地質学会年会に宮下会長が招待された．
・交流先の学会員参加に向けた年会等の国際化の必要性（具体的には，年会でのアジアセッション開催や，世界ジオパーク見学旅行の企画等）．

3）専門部会連絡委員会（担当理事-藤本）

4）研究委員会
・南極地質研究委員会（委員長-廣井美邦）
・地質環境長期安定性研究委員会（委員長-吉田英一）
地層処分に関するリーフレット「日本列島と地質環境の長期安定」の原稿を作成した．

（3）編集出版部会
1）地質学雑誌編集委員会（委員長-久田理事　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
地質学雑誌編集委員会（委員長-久田　副委員長-小嶋，岩森＝企画担当）
115-11月号：論説3　短報1　ノート1（60ページ・11/30発送）
115-12月号：特集号「陥没カルデラ(I)：構造とマグマ」論説5　口絵1（63ページ・校正中）
116-1月号：論説4　報告1　短報1　口絵1（入稿準備中）
今月の編集状況（11月30日現在）
2009年度投稿論文　総数69編［論説37（和文37），総説11（和文11）短報17（和文16　英文1），ノート3（和文3）報告1（和文1）］口絵8（英文4・和文4）
投稿数昨年比　−46　査読中編　61
受理済み18編（うち通常号8　特集号10）

2）アイランドアーク編集委員会（編集長-井龍理事，編集事務局長-竹内圭史）
・10月31日現在のIsland Arcの編集状況
現在のインパクトファクタは1.07であり，さらなる向上を目指す．

3）企画出版委員会（担当理事-藤林）
・リーフレットの企画・作成等に関する規則類をHPに掲載した．
・その他リーフレットの企画：城ケ島（三浦半島），大根島（島根県）など国立公園以外のたんけんマップの企画が出てきている．
・フィールドジオロジー6巻「構造地質」が12月23日に刊行．
・地学読本校正中

（4）普及教育事業部会
1）地質基準委員会（委員長-新妻）
・現在の活動状況が報告された．
2）地層名委員会（委員長-天野）
・9月6日に拡大委員会を開催し，第四紀問題に関して以下のことをおこなった．
・学術会議IUGS分科会（斎藤靖二委員長）に対し，1月22日開催の第四紀問題に関するシンポジウムの共催申し入れと講演者の推薦をおこなった．
・同分科会の検討WGに対し地層名委員会としてメンバーの推薦をした．
・会員等に対し，News誌，Web，geo-flash等に第四紀問題に関する概説を掲載した．
・5月の連合大会に「第四紀」でシンポジウムを申し込んでいる．
（5）その他理事会関係委員会等報告
1）法務委員会（委員長-上砂理事）
・法人の利益相反，個人情報，除名の3規則案と倫理綱領について検討した．
2）支部長連絡会議（担当理事-高木副会長）
・9月6日に支部長会議を開催し法人の支部会計，支部規則について意見交換した．
3）地質災害委員会（担当理事・委員長-藤本）
4）ジオパーク支援委員会（委員長-天野，担当理事-高木）
・ジオパークを宣伝するためのポスターを作成し関係機関へ配布した．
・来年の5月の連合大会に他学会と共同でジオパークのシンポジウムを申し込んだ．
【日本ジオパーク委員会（委員-高木副会長）】
・2009年度の加盟申請については以下のように決定した．
GGN加盟申請地域：山陰海岸ジオパーク
JGN認定地域：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク・隠岐ジオパーク・阿蘇ジオパーク・天草御所浦ジオパーク
5）法人化作業委員会（担当理事・委員長-渡部常務理事）

2．評議員会関係委員会等報告
1）男女共同参画委員会（委員長-堀）
・10月7日学協会男女共同参画シンポジウム（東京工業大学）において，地球惑星連合関係学会として，これまでの本委員会活動をポスターにて紹介した．
・地質学学会HPに男女共同参画委員会の紹介ページを作成中．
・来年度の委員会関係事業として，1）学会保育室利用促進のための利用者補助，2）Geo-Kids応援プログラムの企画を検討中．皆様のご理解，ご協力をお願いしたい．

3．その他
1）IYPE日本委員会（佃副会長）
・ファイナルイベント　3月27日―28日（富士ソフトアキバプラザ）
「惑星地球フォルム2010 in アキバ―君たちと考える環境・防災・資源」
記念式典　28日　第1部　セレモニー，第2部　記念講演およびパネル討論，アキバ宣言
テーマ展示　3月27日―28日　青少年対象，フォトコンテストの表彰式
2）国際地学オリンピック日本委員会（委員長-久田）
・国際地学オリンピック（9/14台湾）では派遣学生4名全員が銀メダルを獲得．
・2010年第4回の開催国はインドネシア，2011年第5回はイタリア，2012年第6回は日本開催（8月26−9月2日予定）が決定．
3）地質の日委員会（委員-藤林理事）
2009年10月20日に第3回「地質の日」事業推進委員会が開催され，新体制が承認

された．また，第２回「地質の日」関連イベントの最終的な集計数として，全国60の機関及び団体で98のイベントが開催され，参加者数合計が260,433人であったことが報告された．

４）学術会議関連

宮下会長より，地球科学関係で10件の大型プロジェクトが提案され，学術会議で検討．

４．理事会審議事項報告（おもなもの，詳細は（任）理事会議事録参照）

１）任意団体の解散について

・解散と資産の引き継ぎは，５月の総会で決議．

・新年度から活動はすべて法人に移行し，任意団体の新年度会計はゼロとする．会計処理などもあるので，５月総会までは解散に備えるだけの期間とする．

２）地方分権改革推進委員会第３次勧告，博物館法改正にたいする独自の意見表明について

連合として連名で出すことになったので，学会独自では行わない．

３）地球惑星連合の定款変更に同意書を提出

◯評議事項

１．任意団体の解散について

2010年５月の総会で任意団体を解散し，任意団体の全財産および活動を法人に移行する．法人総会で一般社団法人の活動が実質的に開始するというスケジュールが説明され，承認された．

以上

一般社団法人 日本地質学会

一般社団法人日本地質学会としての活動をご報告します．

（一社）日本地質学会2009年度 第６回執行理事会議事録

期　日：2009年11月14日（土）
17：00～18：00

場　所：地質学会事務所

出席者：宮下会長，佃副会長，渡部常務理事　藤本副常務理事　上砂　齋藤　坂口　久田　藤林　向山　矢島　各理事，橋辺（事務局）

欠席者：高木副会長，石渡　岩森　倉本　小嶋　井龍

＊成立員数（9/17）に対し，出席者11名で，執行理事会は成立．

＊前回議事録の承認

◯報告事項

１．11/13に選挙委員会が開催され，立候補者の確認，選挙広報の準備等を行った．

立候補者数174名（全国区88名，地方区86名）

うち会長立候補意思表明１，副会長立候補意思表明２

◯審議事項

２．法人における中期的事業計画の検討（継続）

・国際（石渡），行事（斎藤）に提出を依頼

・来年度計画については

基本的には今年度並みの事業規模で行う．

基本方針は会長が起案する．

富山大会の国際対応や招聘なども盛り込む．

３．一般社団法人の会計上の事業区分について

・会計書類としての説明がしやすいように比較的単純に区分を行う．

・新たに大きく変わるのは支部会計であり，12月の理事会で支部会計の概要を提示．

・引当金の名称を事業準備引当金という名前で統一する方針

３．その他

１）選挙開票立会人の選出　２名

３名の会員を開票立会人候補者として選出し，各人の都合を確認のうえ２名を選出し，理事会に報告することとした．

以上

この議事録の正確を期するため，次の通り署名する．

2009年12月５日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）　宮下純夫
署名人　理事

（一社）日本地質学会2009年度 第２回理事会議事録

日時：2009年12月５日（土）14：30―17：30

会場：北とぴあ　902会議室（東京都北区王子）

出席者：宮下純夫会長　高木秀雄・佃　栄吉副会長

（執行理事12名）渡部芳夫　井龍康文　岩森　光　上砂正一　倉本真一　小嶋　智　坂口有人　斎藤　眞　久田健一郎　向山　栄　藤本光一郎　藤林紀枝

（理事16名）　永広昌之　大友幸子　沢田順弘　新妻信明　脇田浩二　岡　孝雄　伊藤谷生　小山内康人　紺谷吉弘　佐々木和彦　高橋正樹　滝田良基　松原典孝　丸山茂徳　吉川敏之　渡辺真人

（監事）青野道夫

（事務局）橋辺菊恵

欠席者：（執行理事２名）　石渡　明　矢島道子

（理事23名）　阿部国広　荒戸裕之　磯崎行雄　卜部厚志　川端清司　北里　洋　柴正博　中川光弘　保柳康一　堀　利栄　松本俊幸　三宅康幸　山路　敦　山根　誠　磯野　清　足立勝治　安藤寿男　狩野謙一　木村　学　公文富士夫　芝川明義　松岡篤　村山雅史

オブザーバー：山本高司会員（関東支部幹事）

＊定足数（理事）　29/56　出席者　31名，欠席　25名（オブザーバー１名）．

＊書記の選出：大友幸子・脇田浩二両理事を選出．

◯報告

執行理事会報告

＊執行理事会議事録参照

選挙管理委員会報告（松田達生委員長）

・代議員選挙の実施，現在進行中，投票期間11月30日から１月９日まで

立候補者　全国区　88名（－12名）＊無投票当選

地方区　86名（関東支部区－13名，四国支部区－１名）

＊無投票当選　ただし支部代表理事選出のため投票

・会長（１名）及び副会長（２名）の立候補意思表明者があり，理事会からの負託により，同時に意向調査を行っている．

・代議員選挙および会長・副会長候補者への意向調査終了後，代議員による理事選挙を実施する．

以上書面にて報告があった．

◯執行理事会審議事項（おもなもの，執行理事会議事録参照）

１）利益相反規則，個人情報保護に関する規則，除名規則の３規則案と倫理綱領の策定と確認

２）法人における中期的事業計画の検討

３）2012年の国際地学オリンピック大会日本開催について

４）法人の会計上の事業区分について

５）法人会計処理規則の整備（任意団体の修正版）

６）行政刷新会議の事業仕分け（深海ドリリング，地球内部ダイナミクス，若手研究者育成）に対し，会長名で意見書を提出．

◯審議事項

１．法人の中期的事業計画について検討

計画案として具体性がないという指摘がなされたが，3-5年の中期の方針を示したもの

であり，中期計画のマイルストーンを明示するとともに，具体的な内容は年度計画で示すということで了承された．また，学術的に新しい研究を支えていく取り組みを明示すべきという意見やジオパークを中核とした社会貢献を行うべきという意見などがあった．

2．来年度事業計画について
用語の意味が曖昧で分かりにくい点がり，具体性に欠ける点も指摘されたが，計画骨子であるということで，了承された．

3．支部の法人移行に伴う会計について
支部の会計について，本部会計との一本化とすることが提案され（これまでの支部補助費の配分はなくなり，支部は年度ごとに計画を出して予算配分を受ける），質疑はあったが，基本的に了承された．

4．地質災害への対応
災害対応について，今後の課題等について説明されたが，これまで培ってきた支部の役割が明示されてないという問題点の指摘もあり，地質災害委員会の中での十分な検討が要請された．

5．名誉会員推薦委員会委員の選出および推薦委員会規則（任意団体の修正版）について
・2009年度名誉推薦委員会委員候補者
職責委員（各支部長）：宮坂省吾（北海道），大槻憲四郎（東北），伊藤谷生（関東），原山 智（中部），宮田隆夫（近畿），臼井　朗（四国），大木公彦（西日本）
階層別代表（5名）：大学：岡村　真（高知大学），小中高：紺谷吉弘（立命館高校），官公庁：植村和彦（科学博物館），会社：足立勝治（アジア航測），理事会代表：石渡　明（執行理事，東北大学）
・名誉会員推薦委員会規則について，名誉会員推薦者に支部を加えることが提案され，了承された．

6．利益相反，個人情報，除名の3規則案策定と倫理綱領，および会計処理規則について
・一部文言の修正と，利益相反自己申告書等の管理・保管期間を5年と明示することが提案され，3規則は了承された．
・倫理綱領は，文言等の変更もせず従来のまま，法人の倫理綱領とすることが了承された．
・会計処理規則について，書類の保存期間等についての質問があったが，了承された．

この議事録の正確を期するため，次の通り署名する．

2009年12月28日
一般社団法人日本地質学会
会長（代表理事）　宮下純夫
署名人　理事

訃　報

本会の次の方々が逝去されました．謹んで哀悼の意を表します．

正会員　鈴木康司（2009年11月8日）
植田和男（2009年11月9日）
根本　守（2009年12月2日）
本庄　充（1月4日）

日本地質学会会員の皆様へ：宮崎県総合博物館より情報提供のお願い

宮崎県総合博物館では，県内の地質情報の集約に努めておりますが，思うに任せない状況です．
近年，新たに決められた新第三紀－第四紀境界の存在が宮崎層群内に想定され，その調査のためなどに県外の研究者のみなさんが調査に来られているとの話も耳にするようになってきました．
当方としては，**宮崎県下の地質情報を集約し，博物館活動に活用したい**と考えております．このため宮崎県内を調査されるみなさんとはぜひコミュニケーションを図りたいと思っております．また，当方で知っている情報で参考にしていただけることがあるかもしれません．
来県の際は，ぜひ当館にお気軽に御来館下さい．どうぞよろしくお願いいたします．

連絡先　宮崎県総合博物館　学芸課地質担当（赤崎・松田）
〒880-0053　宮崎市神宮2-4-4
電話：0985-24-2071　FAX：0985-24-2199
e-mail：akazaki-hiroshi@pref.miyazaki.lg.jp

表紙紹介

青海川ヒスイ峡の日本最大のヒスイ

写真：**フォッサマグナミュージアム**
文：**茨木洋介**（フォッサマグナミュージアム）

新潟県糸魚川市青海川上流の橋立にある青海川ヒスイ峡は，周辺に広がる蛇紋岩メランジュ中のヒスイ岩塊が，地滑りと河川による削剥によって洗い出され，河床に集積した転石群です．数多くの鉱山師や地質学者がこの地を訪れましたが，発見されたのは1955年でした．中でも日本最大の重さ100トンを超える巨大なヒスイ転石は必見です．水量が少なければその上に乗ることもでき，ヒスイ独特のきめ細かな触感や微細なヒスイ輝石が陽光によってキラキラと輝く様子が観察できます．さらに注意深く観察すれば美しい緑色や薄紫色をしている部分や縞状の構造がわかります。学術上の価値が高いヒスイの産地として1957年2月22日に国の天然記念物に指定され，さらに2009年5月10日「日本の地質100選」に選定されました．
糸魚川市には，地質だけでなく，動植物，歴史，文化に関する見どころが数多くあり，地質と関連しているものが少なくありません．糸魚川市がこれらを活用して推進している「糸魚川ジオパーク」は，2009年8月22日に日本初の「世界ジオパーク」に認定されました．代表的なジオサイト（野外の見学地）である青海川ヒスイ峡は，ジオツーリスト，小学生から高校生の学習，大学や学会の巡検などで多くの人が訪れています．

出 版 物 在 庫 案 内

ご希望の方は代金を添えて本会事務局宛お申込みください．なお，2冊以上のお申込みにつきましては送料をお問い合わせください．

現金書留または郵便振替　00140－8－28067

40号以前の論集については，一部在庫がございます．院生・学生4割引，正会員2割引で販売しております．ご希望の方は学会事務局までお問い合わせ下さい．No. 40以降の論集：院生・学生のみ2割引

地 質 学 論 集

第 40 号　中央構造線のネオテクトニクス―その意義と問題点―．岡田篤正ほか編，250pp., 1992年12月刊，会員頒価3,200円，〒340円

第 42 号　西南日本の地殻形成と改変．小松正幸ほか編，357pp., 1993年 4 月刊，会員頒価3,100円，〒340円

第 43 号　浅部マグマ溜りとその周辺現象の地球科学．村岡洋文ほか編，177pp., 1994年 4 月刊，会員頒価2,000円，〒340円

第 44 号　島弧火山岩の時空変遷．周藤賢治ほか編，335pp., 1995年11月刊，会員頒価2,800円，〒340円

第 45 号　~~シーケンス層序学―新しい地層観を目指して．斎藤文紀ほか編，249pp., 1995年 8 月刊，会員頒価2,500円，〒340円~~ **（売り切れました）**

第 46 号　火山活動のモデル化．佐藤博明ほか編，162pp., 1996年 9 月刊，会員頒価 1,900円，〒290円

第 47 号　日高地殻―マントル系のマグマ活動．荒井章司ほか編，323pp., 1997年 4 月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 48 号　Cretaceous Environmental Change in East and South Asia （IGCP350） Contributions from Japan―　岡田博有ほか編，188pp.，1997年 6 月刊，会員頒価 2,100円，〒340円

第 49 号　21世紀を担う地質学．新妻信明ほか編，232pp.，1998年 3 月刊，会員頒価 2,500円，〒340円

第 50 号　構造地質　特別号―21世紀の構造地質学にむけて―．狩野謙一ほか編，263pp.，1998年 7 月刊，会員頒価2,500円，〒340円

第 51 号　地震と地盤災害―1995年兵庫県南部地震の教訓―．岡田博有ほか編，162pp.，1998年 3 月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 52 号　オフィオライトと付加体テクトニクス．宮下純夫ほか編，316pp.，カラー 10pp.，1999年 9 月刊，会員頒価3,000円，〒340円

第 53 号　本州弧下部地殻と珪長質マグマの生成・活動システム．加々美寛雄ほか編，401pp.，1999年11月刊，会員頒価3,900円，〒450円．

第 54 号　タフォノミーと堆積過程―化石層からの情報解読―小笠原憲四郎ほか編，197pp.，1999年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 55 号　~~ジュラ紀付加体の起源と形成過程．木村克己ほか編，221pp.，2000年 1 月刊，会員頒価2,800円，〒340円．~~
（売り切れました）

第 56 号　古領家帯と黒瀬川帯の構成要素と改変過程．高木秀雄ほか編，253pp., 2000年 3 月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 57 号　砕屑岩組成と堆積・造構環境．公文富士夫ほか編，240pp., 2000年 9 月刊，会員頒価2,800円，〒340円．

第 58 号　地震イベント堆積物―深海底から陸上までのコネクション―藤原　治ほか編，169pp., 2004年12月刊，会員頒価2,900円，〒340円．

第 59 号　沖積層研究の新展開　井内美郎ほか編，212pp.，2006年 5 月刊，会員頒価2,400円，〒340円．

リーフレットシリーズ

大地の動きを知ろう―地震・活断層・地震災害―　1995年 4 月発行　会員価格200円（非会員300円）

大地のいたみを感じよう―地質汚染Geo－Pollutions 1997年 2 月発行　会員価格 200円（非会員300円）

大地をめぐる水―水環境と地質環境―　2001年 5 月発行　会員価格300円（非会員400円）

国立公園地質リーフレットたんけんシリーズ

1．箱根火山たんけんマップ―今、生きている火山　2007年 5 月発行　会員価格300円**（20部以上購入の場合割引あり）**

2．屋久島地質たんけんマップ―洋上アルプスは不思議な地質がいっぱい―　2009年 3 月発行　会員価格300円
（20部以上購入の場合割引あり）

国立公園地質リーフレットシリーズ

1．箱根火山　2007年 7 月発行　会員価格1,000円**（20部以上購入の場合割引あり）**

下敷き：「干渉色図表」・「偏光顕微鏡による鉱物鑑定表」（英語版）1 枚200円（非会員300円）

講演要旨集ほか

第116年見学旅行案内書（2009年岡山）　会員頒価2,800円，〒500円

第115年見学旅行案内書（2008年秋田）　会員頒価2,500円，〒500円

第114年学術大会講演要旨（2007年札幌）　会員頒価4,000円，〒500円

第114年見学旅行案内書（2007年札幌）　会員頒価2,400円，〒500円

※このほか，大会講演要旨は，2002年新潟，2003年静岡，2004年千葉，2006年高知．見学旅行案内書は，2003年静岡，2004年千葉，2005年京都に残部があります．

フィールドノート：学会オリジナル．12×19cm．ハードカバー．レインガード使用　会員頒価 1 冊500円．

入　会　の　ご　案　内

入会ご希望の方は下記の入会申込書を日本地質学会事務局へお送りください.

入会には正会員1名の紹介が必要です. 近くに紹介者となるべき会員がいない場合はその旨お申し出ください. また, 申し込み時には, 初年度の会費を添えてお申し込みください.

申込書送付先:101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　日本地質学会
送金先:郵便振替口座　00140-8-28067　日本地質学会
会費額:正会員 12,000円　(学部学生割引＊5,000円, 院生割引＊8,000円【定収のない方に限る】)
＊学部学生割引, 院生割引を希望される方は, 下記の割引申請欄に指導教官の署名, 捺印をもらってください.

日本地質学会入会申込書　Application form for the Geological Society of Japan

太枠内のみにご記入ください(＊Official use only)

＊会員番号	＊会員種別　□正会員 (□学部学生割引 ・ □院生割引)
氏名(ふりがな) Name in Japanese	ローマ字表記 family name　first name
_____年Year_____月Mo_____日Day 生born on	Sex: □ 男 Male　□ 女 Female　Country:

学歴 Academic career:

_____学校 High school_____年卒業 Year completed

_____大学 University _____学部 Faculty _____年____月 卒業(見込み)Year completed

修士 Master:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年____月 修了(見込み)Year completed

博士 Doctor:_____大学Univ._____研究科Fac. _____年____月 修了(見込み)Year completed

自宅住所 Home address: (郵便番号 Zip code　－　)

電話 Phone:　ファックス Fax:

電子メール E-mail:

所属機関・住所 Affiliation with address: (郵便番号 Zip code　－　)

電話 Phone:　ファックス Fax:

電子メール E-mail:

連絡先 Correspondence:　□ 自宅 Home　□ 所属機関 Office

会員名簿の掲載項目:2年に1度, 会員名簿を発行しています. 氏名・所属先は掲載必須項目です. 下記の項目について**掲載を拒否する項目には □ にチェックを付けてください(チェックが無い項目は掲載承諾いただいたものとします)**.

□ 最終学歴　□ 所属先学科名・部課名(掲載不可の場合は「○○大学○○学部」,「㈱△△△△社」までを必須項目として掲載)
□ 所属先住所　□所属先電話・FAX番号　□自宅住所　□自宅電話・FAX番号　□e-mail Address

紹介者名(正・院生会員)　印

Recommended by (name of member) _____ Signature

学部学生割引・院生割引申請欄:運営規則に基づき会費の院生割引を申請いたします.

上記本学の学生につき,　□ **学部学生** ・ □ **定収のない院生(研究生)** 〔いずれかにチェックをつけてください〕
であることを証明いたします.

指導教官 所属:　氏名:　印

専門部会:現在, 下記の13の専門部会があり活動しています. 専門部会に参加ご希望の方は登録をお願いします. 所属希望の部会を3つまで選択することができます. (該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 地域地質　2. 層序　3. 堆積地質　4. 現行地質過程　5. 海洋地質　6. 構造地質
7. 岩石　8. 火山　9. 応用地質　10. 環境地質　11. 情報地質　12. 古生物　13. 第四紀地質

興味専門分野:あなたの興味専門分野を教えてください. 3つまで選択することができます. (該当する項目に○印を付けて下さい)

1. 層位　2. 堆積・堆積岩　3. 古生物　4. 構造地質　5. 火山・火山岩　6. 深成岩　7. 変成岩
8. 鉱床地質(金属・非金属)　9. 鉱床　10. 鉱物　11. 燃料地質　12. 地熱　13. 第四紀　14. 環境地質
15. 都市地質　16. 土木地質　17. 土質工学　18. 水文地質　19. 探査地質　20. 土木工学　21. 情報地質
22. 地震地質　23. 海洋地質　24. 地球物理　25. 地球化学　26. 地質年代学　27. 地理　28. 地学教育
29. 考古　30. その他　40. 地球惑星

＊受付(　年　月　日)　＊入金(　年　月　日) 振替・現金・銀行・他
＊承認(　年　月　日)　＊送本(　巻　号)

デジタルクリノメーター GeoClino

走向/傾斜や線構造を1回の操作で簡単に測定

税込価格 ¥49,800

デジタルクリノメーター「GeoClino」は、従来の測定方法とは異なり層理面に当てるだけで走向・傾斜を同時に測定することができます。さらに、測定の難しい線構造も簡単に測定することができるので、測定時間の大幅な短縮が見込めます。

GeoClinoは測定データを本体メモリ内に999個まで保存し、付属のケーブルを接続してパソコン側へ転送することができます。

また、GeoClinoは耐水機能を完備しているので野外調査でも安心してお使いいただけます。

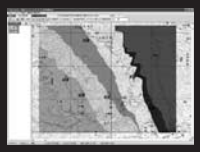
【走向傾斜の測定風景】

【線構造の測定風景】

外形寸法：約142×69×26㎜　電源：単3アルカリ電池2本で約20時間連続使用可能

・便利なソフトウェア「GeoAssist」が付属

GeoAssistでGeoClinoから測定データを収録し、地図上に走向・傾斜を表示することができます。
また、走向・傾斜データから簡易地質図を作成することもできます。



さらに便利なGPS搭載版"GeoClino-G"!!

・GeoClino-G（GPS搭載版）　税込価格 ¥82,000

GPS機能を搭載しており、走向/傾斜・線構造の測定時に緯度・経度を捕捉して計測データと共に位置データを保存できます。

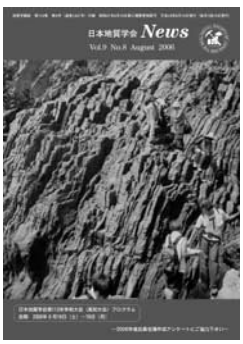
GSI ジーエスアイ株式会社
〒310-0805 茨城県水戸市中央2-8-37 茨城県味噌会館2F
TEL: 029-302-5238 FAX: 029-302-5248

お問い合わせはこちらから
http://www.gsinet.co.jp

広告募集

News誌に広告を掲載しませんか.

News誌の掲載広告を募集しています．学会の直接取り扱いになりますので，カラー印刷・掲載サイズなどご相談に応じます．ぜひご利用ください．



＜広告掲載価格表＞

	価格（モノクロ）	版下作成	カラー
表 4	60,000	＋10,000	＋10,000
表 2	50,000	＋10,000	－
表 3	40,000	＋10,000	－
普通	35,000	＋5,000	－

（単位：円）

申込・問い合わせ：日本地質学会事務局
電話　03-5823-1150　FAX　03-5823-1156
e-mail ; main@geosociety.jp

planetearth Earth Sciences for Society International Year of Planet Earth 国際惑星地球年
地球科学を社会へ

国際惑星地球年(IYPE)終了記念イベント

惑星地球フォルム2010 in アキバ

—君たちと考える 環境・防災・資源—

2010年3月27日(土) - 28日(日)
@富士ソフトアキバプラザ6階（JR秋葉原から徒歩2分）

環境：地球を診察する

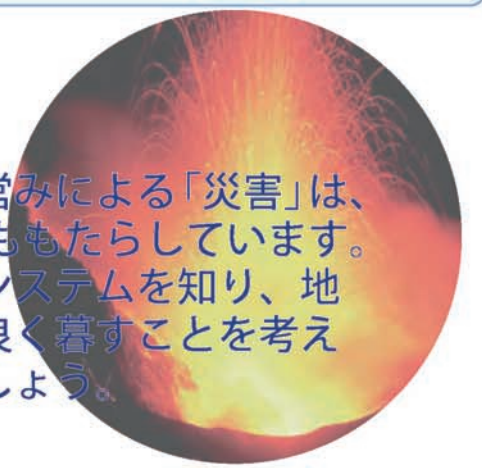
自然に刻まれた環境の変化を読み解こう！

3月27日(土)
10:00 大学発地域の防災シンポジウム「命つなぐ力」
13:00 講演と音楽「先史文化と新資源の国トルコを歩く」
15:00 早大高等学院の高校生, 四川大地震の記録映画製作者と一緒に語る『大地の変動』
——
12:00～17:00 テーマ展示「環境」「防災」「資源」

資源：「地球」を使ってくらしている

私たちのくらしは，食糧や工業原材料，エネルギーなど，どれほどの「資源」を必要とするのだろう？

3月28日(日)
09:00 国際惑星地球年映像コンテスト表彰式
10:00 惑星地球フォトコンテスト表彰式
11:00 記念式典
13:00 記念講演「社会的共通資本としての地球をまもる」
14:00 パネル討論「<地球>知識　その共有と双方向ネットワーク」
——
09:00～16:00 テーマ展示「環境」「防災」「資源」



地球の営みによる「災害」は、「恵み」ももたらしています。地球のシステムを知り、地球と仲良く暮すことを考えてみましょう。

主催：国際惑星地球年日本
共催：産業技術総合研究所地質調査総合センター
後援：(予定) 文部科学省，経済産業省，日本学術会議，ポルトガル大使館，トルコ大使館
特別協賛：工学院大学，ジオネットワークつくば，シュルンベルジェ(株)，東京地学協会，日本地質学会，ほか

お問い合わせ先
国際惑星地球年日本(IYPE日本)事務局
産業技術総合研究所 地質調査総合センター内
T: 029-861-3687 / F: 029-861-3672 / E: iype-sec@gsj.jp

—IYPE日本会員—
茨城大学地質情報活用PT，(独)海洋研究開発機構，(独)国際農林水産業研究センター，(独)国立環境研究所，(独)産業技術総合研究所［地質調査総合センター］，ジオネットワークつくば，(独)森林総合研究所，(独)水産総合研究センター，石油技術協会，(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構，(社)全国地質調査業協会連合会，地球電磁気・地球惑星圏学会，(特)地質情報整備・活用機構，「地質の日」事業推進委員会，(社)東京地学協会，東北地理学会，(独)土木研究所，日本鉱物科学会，日本古生物学会，日本沙漠学会，日本ジオパークネットワーク，日本情報地質学会，日本水文科学会，(社)日本雪氷学会，日本測地学会，日本堆積学会，日本第四紀学会，日本地震学会，日本地熱学会，(社)日本地理学会，(社)日本土壌肥料学会，日本ペドロジー学会，(独)農業環境技術研究所，(独)農業・食品産業技術総合研究機構，(財)深田地質研究所，(社)物理探査学会

お断り：プログラム等，予告無しに変更することがあります［2010.2.4P版］

©日本地質学会　〒101-0032　東京都千代田区岩本町2-8-15　井桁ビル6F　電話03-5823-1150
Fax 03-5823-1156　E-mail：main@geosociety.jp　ホームページ http://www.geosociety.jp